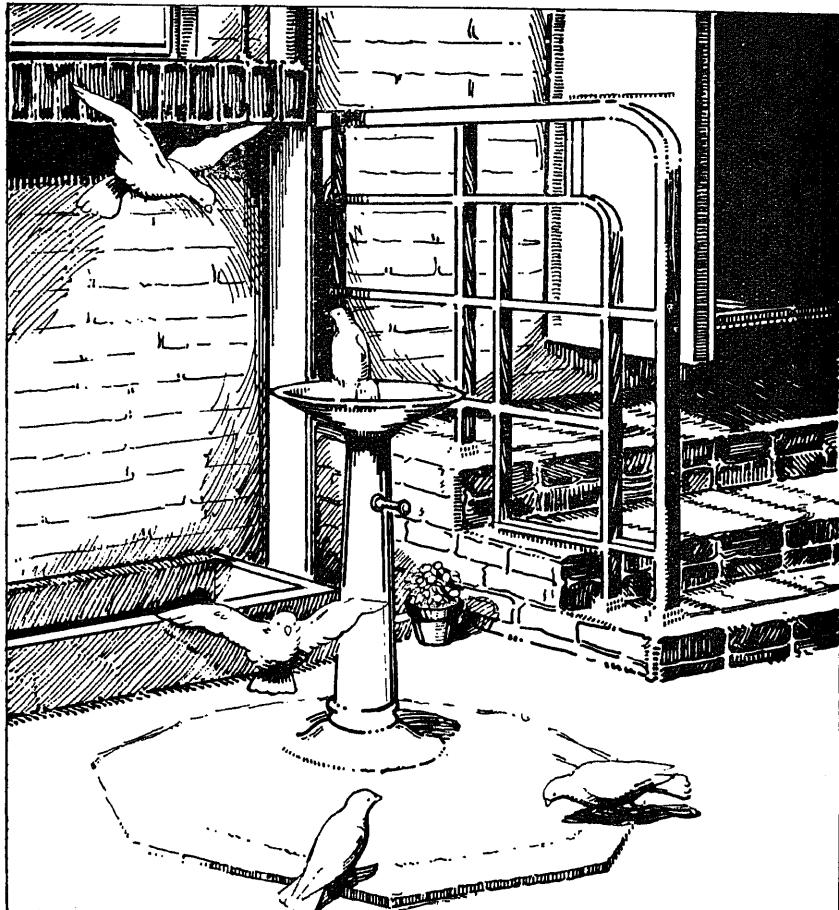


幼兒の教育

四月號 第四號 卷五十三第



東京女子高等師範學校内
日本幼稚園協会

文部省學校衛生官
體育研究所技師

醫學博士 吉田章信先生著

菊判 洋二圓二十錢 緞全一冊
送料廿二錢

新刊

夕ノ式

學校衛生評價

學校に於ける衛生の施設は児童の保健上最も留意せらるべき重大問題である。本書は學校衛生施設の評價を研究したものが、全般的に學校衛生の向上を目的り、其一部の施設に於て失はざる様終始連絡を取り、更に在學中の得たる効果を生涯を通じて保有せしめ、以て眞に強健なる國民を養成すべきを力説す。而して學校長の自らの實績に對する態度と各職員の定めた學校に關する關係官廳に於ける施設、師範教育に於ける衛生評價等、當局者の採用等によるものも言及し、一、健康保持、二、疾病異常矯正と缺陥者との保健、三、健康増進の三大綱目に別ちに以て詳説し、斯界最高の指針とする。

東京帝國大學
助教 教授

文學士 青木誠四郎著

劣等児
低能兒

心體
其教育

菊定送
判價料

金三二
一周
冊八十
洋十二
総錢錢

等しく人類と生れ乍らも天賦程其の恵みに不公平の物はない。今假に児童の天分を學的に分類して天才、最上智・上智・平均智・下智・愚鈍・精神薄弱・低能・白痴に分類すると、極端な低能兒は全児童の約2%を占め、殆ど之れに下智・愚鈍等の偏異者を合すれば二、十%に及ぶと言ふ。著者は只管に之等世に憐むべき人達の幸福を少しでも増す爲に、より完全な教育を慾望する爲に本書を世に問ふたのである。

學童保健

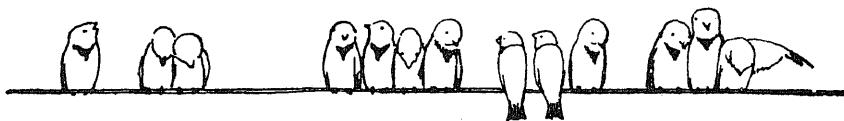
醫學博士 三田谷啓著

菊定送
判價料

金三一
冊四十一
洋三三

本書は學童の健康増進に其一生を費さう天職として挙げつゝある僕學の博士が凡ての蘊蓄を傾倒して著せる業績である。従つて其内容に於ては苟しくも兒童の保健に關する限り、之れを學的、統計的、施設等の各方面より眼なく詳説し、猶ほ其の實際問題、現狀に基づいて懇切に指導してあるから學校教育家は勿論各家庭に於ても本書に依つて學童健康の萬全を期し得る良書である。

番七二四八三京東替電
番五二三三込牛電話
區四七一町天辯
所行發
中文書館店



第 四 第 教 育 の 兒 幼 卷四十三第

—(次) 目—

卷 頭(進歩するものと進歩しないもの).....	倉 橋 惣 三 : (一)
都市幼兒教育の問題(一).....	倉 橋 惣 三 : (二)
獨逸プロシャの幼稚園規定.....	多 田 鐵 雄 : (一〇)
小學校入學検定を終へて(二).....	堀 七 藏 : (一元)
獨逸の人形芝居に就いて.....	東 山 新 吉 : (三元)
幼兒 童話ねずみの話.....	氏 原 銀 : (三元)
幼兒 童話不思議な金の鈴.....	青 木 信 子 : (四)
幼兒 童話 へうたんラヂオ.....	須 子 啓 子 : (四)
あなたの机上へ.....	(西)
児童心理學文獻抄(六).....	牛 島 義 友 : (三)
第六回全國幼稚園關係者大會出席所感.....	大 塚 喜 一 : (空)
芝に就いて.....	大 岩 金 : (空)
童話何故さう物語.....	中 野 好 夫 : (三)

文學士 山 本 猛著

幼稚園 託児所 保育學 総要

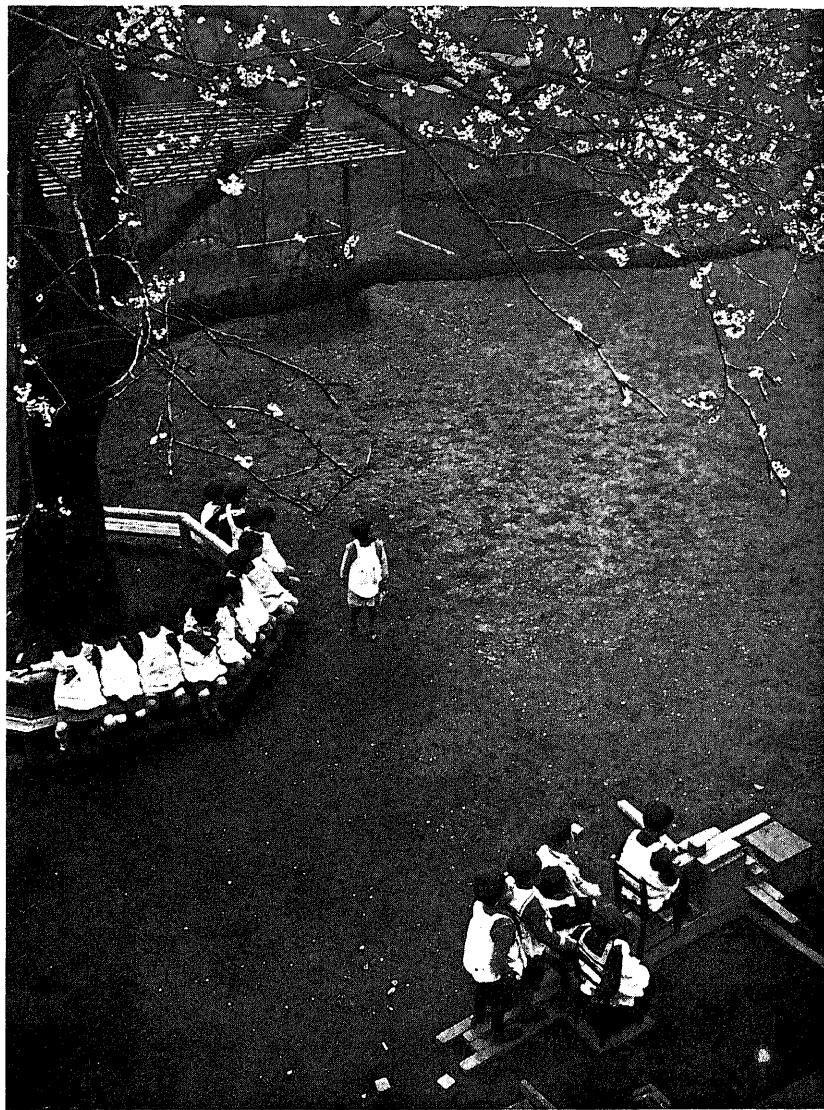
菊 刊 洋 装
三七〇頁
定價金貳圓五十錢
送料金拾四錢

本書は著者が十数年にわたる保育事業研究の蒐集である。その内容は現在行はれてゐる保育事業の種類並にその特異性を明にし、今後如何なる保育事業が社會から要求せらるか、またその經營は如何すべきか、等保育事業經營者の特實際的顧問ともなり得る様に園舎の設計、遊園の設置方法、備品の目録、豫算のたて方、經費調達の方法等を詳しく述べてある。更に保育に當つては幼兒の身體の發達に添ふたために幼稚園醫の活動すべきことを、並に園醫の職務及これに必要なる備品に就いて述べ、更に又、幼兒の保育は幼兒の生活要求に添ふために、見たい心に觀察、聽きたい心に談話、ひたい心に唱歌、歌につれて踊りたくなる心に遊戲、踊り疲れて静かさせ求める心に手技、總て幼兒の求める生活を中心とした、保育案の作製方法の實際を舉げて居り、誰でも易々と一讀して参考になる様に解り易く書いてある。

朝原梅一著 幼稚園 託児所 保育の實際

四六刊 洋裝
三三〇頁
定價金壹圓五十錢
送料金拾貳錢

東京市口替新宿区谷四座東京二七一〇番八八行所發



空の花

育教の児幼

昭和十四年四月

進歩するもの

進歩しないもの

進歩するものと、進歩しないもの。これは大きな二つの分類である。自然界でも、人間界でも。

去年植ゑた木が、こんなに伸びてゐる。草が一日々々に生長する。その傍に石があり、杭がある。若木を支へるに用ひられた杭が、今はもう若木よりも低くなつてゐる。石が茂る草に覆はれて仕舞つたりする。そんなこゝさへ珍らしくない、大きな二つの分類である。

春は、自然の中で進歩するものゝ目立つ時である。其の裏に、進歩しないものも目立つ時である。

三月、子きも達を送り出す時、その生長と進歩に今更に驚かされた我等は、そして又、四月、新らしい子きも達を迎へて、その進歩と生長との激測たる期待に充たされる我等は、その後でいつも自分を思はずにゐられない。子きもに比較してゞはない。昨日の自分に比較してゞある。

進歩する幼稚園と進歩しない幼稚園。進歩する保母と進歩しない保母。これは最も大きな二つの分類である。しかも、屢々、自ら平氣である差別である。

(倉橋惣三)

都市幼兒教育の問題

(一)

—或る講習會の速記—

倉 橋 惣 三

(二) 幼兒に對する都市文化の過重

この問題はお互の從事致して居ります都市に於ける教育に就いてであります。その都市といふ條件を基にしてお互に日々の研究或は工夫がなされて居ることは申すまでもないこことあります。この頃郷土教育といふことが盛んに云はれますが、これは郷土の長所を教育の中に取入れて来るといふことがその根本の主張であります。若し郷土に長所でない……缺陷云ひますか、短所でもありますれば、之を考慮しますのも亦郷土教育の一つの問題かと考へるのであります。

併て幼稚園を基にして一つ考へて見ます。幼稚園は例へば文部省幼稚園令に依つて示してある所に據ります。何處の幼稚園にも當嵌まる幼稚園の目的が掲げてあります。併しながら幼稚園の本質は……一般教育に於てもさうでありまするけれども、尙更相手を主として居る性質のものであります。教育をするために子供を呼んで來たのでなくして、子供の處へ教育を持つて行くのであります。その子供の必要に應じて、子供の事情に従つてその教育は非常なる融通性を申しますが、變化性を持つてゐなければならぬものである。幼稚園とはかういふものであるといふことをよく云ふ人がありまされども、これは斷言的な話でありまして、この子に必要な幼稚園はさうだと考へなければ本當になつて來ないこ思

ふ。國民教育の方面から申しますれば、自らさう融通は付ける譯にも行かぬ所があらうかと思ひますけれども、幼稚園の場合に於きましては、少くもさういふ風に考へて然るべきものか考へます。

然るに私の密かに心配します所では、田舎に行きましたも、山の中に行きましたも、海邊に行きましたも、森の中に行きましたも、大都市に行きましたも同じような幼稚園が行はれて居るこりであります。勿論先生は、田舎の先生と都會の先生とは御風采からして大變に違つて居ります。流石都會の幼稚園らしいスマートな、シックな先生を以つて構成されて居りますけれども、併しそのやつて居りますこりに就いては餘り變らないと思ふ。これで果して宜いかどうかこりは大きい問題である考へます。

更にその問題を少しく外の方面から考へてみますと、一體幼稚園といふものが今日は何もフレーベルの幼稚園その儘を傳統致して居るのではなくて、我等の幼稚園をこゝに仕立てゝ居るのでありますけれども、幼稚園といふものゝ歴史的概念をフレーベルまで遡つてみたと致しますれば、フレーベルの幼稚園は田舎幼稚園である。フレーベルが初めて幼稚園を設けましたブランケンブルグは全く田舎であります。又ルーベンスタインも實に田舎であります。森の中である。そこに集つて來て居ります子供は皆百姓の子供であります。ある人の書いて居ります所に據りますれば、靴を穿いて居る子供は極く少い、とあります。これは所謂都市にあります細民窮—いふ言葉は不適當であります。さういふ地區の子供達が貧しい風をして託児場に來るのは違ひまして、必ずしも貧しいいふ譯ではないのであります。土に親しむ所の素足の生活を親も子も皆がやつて居りますその田舎幼稚園であります。私はルーベンスタインの幼稚園を見まして、全く森の中でやつて居る幼稚園である考へました。そのフレーベルの考の中には、田舎であらうが都會であらうが、幼児の自己活動を尊重するいふ不變的な教育哲學を持つて居りますけれども、そのフレーベルの考へて居りました、そし

て實行しました幼稚園は森の中で田舎の子供にした幼稚園であつたのであります。その幼稚園が時代に依つてどんどん變つて居りますが、儘でその田舎でやりましたフレーベルの幼稚園は、何も田舎の子供にふさはしくいふことをそんなにフレーベルが意識したかどうか知りませんけれども、我々が都會の子供に對して今日きういふことを餘儀なくされて居るかといふことはフレーベルの頭に考慮してなかつたのであります。そこで若しフレーベルの幼稚園をこゝにその儘持つて來たとしますれば、これは田舎の人ふさはしいものを都會に持つて來たことになるのであります。甚だ考慮の足りない問題になつて来るか考へるのであります。

これは又全くそれを裏返したような言ひ方でありますけれども、我國に於ける幼稚園の發達は、他の教育と大體同じよう、都會本位に發達して参りました。殊に我が國が取入れて來ました亞米利加の幼稚園は、都會幼稚園の形式を取り入れて來たのであります。そのため初から都會で出來たものであるから、別に特に都會といふことを意識しない風もあるかと思はれる。田舎で出來ました幼稚園をその儘繼いで居るといふ意味からは、都會の子に對する特別な考慮が自ら拂はれてゐない。都會の幼稚園をその儘繼いで來たといふ意味に於ては、都會といふものに馴れて、特別な意識をそこを持たない。どちらから致しましても、我々には改めて自分の幼稚園が都會にあるのだといふことに就いてはつきりした認識を持つ必要があるこ申し得るかと思ふのであります。

そこでその所謂都會といふものは如何なるものであるか。ぱり／＼の都會つ子の皆さんに、都會を説明する必要はない。併しながら始終都會にゐらつしやる皆さまとしては、或は都會といふものに確かに馴れ過ぎておいでになるかも知れない。私は中野の田舎に住つて居ります。殊に、勤めて居ります處は小石川大塚の東京としては田舎の方であります。久し振りに神田に参りまして、駿河臺下などを通ります。實に都會といふものを感ずる。田舎者が東京に出て来て、都

會を頻りに感じて居る所であります。確かに皆様もさうかと思ひますが、夏休みを利用して都會を離れて居りまして、久し振りに東京に歸つて来るご、都會ごいふものを非常に感ずる。私は夏休みの後半部を岩手縣の方の温泉で静かに暮して居りました。それから東京に歸つて來ました所が、一日一日ごいふものは、何等自分ごいふやうな氣持がしないのであります。焰焰の中の豆が色々炒られて居るのを見るごがありますが、あの豆はさぞかしこんな氣持がしてゐるのではなからうかごいふやうな氣持がします。何だか自分ごいふものがはつきりそこに落付いて見付からぬように、たゞ騒がしさの中に置かれて居つたような氣がしたのであります。その音ご云ひ、その光ご云ひ、そのざはめきご云ひ、何から何までそんな氣持がします。私の子供が申しますには、どうも壁が見えて仕方がない、屋根が見えて仕方がない、眼を離せば山が見え、森が見えたその眼にもつて来て、この都會のがつちりした建築ごいふものは非常なる威壓を與へる。暫く都會を離れた者から都會を見ますご、實に都會ごいふものが特殊な場所であることは理窟では誰でも知つて居りますが實感に於て自分に感ぜられるのであります。これは私共がその都會の中で何とかやつてゐなければならぬし、又我々が一度都會に來たら直ぐに神經衰弱になるごいふごこでは、現代の生活に處すべく餘りに弱いのでありますけれども、あの小さい子供に取りましては、都會ごいふものがぎんに壓迫的な、威壓的なものであるかごいふことは十分察してやりたいご思ふのであります。都會に生れました子供は、極めてふさはしくない處に生れて來たものであるご思ひます。東京で育つて東京の道路を横切つて幼稚園に行きます子供は、隨分哀れな境遇な子だご私は云ひたいのであります。その大都市が子供に及ぼして居ります影響を別に分解して申上げる迄もありませんが、一つ泌々味はつて置きたいのであります。儲てそれを味はひました所で、それに對する結論は二つに分れるご思ふ。その一つは、かういふ都會の中に育ち、やがてかういふ都會の中に活動する子供でありますから、出來るだけ都會的に馴らして置かなければならぬごいふごこも一

つであります。都會の激しい刺戟に平氣になるように小さな時から鍛えて置かなければならぬといふのも一つの結論として生じて來るのであります。併しもう一つの結論は、何分にもあの柔かい、いたいけな子供に對しまして、この都市の不適當なる文化的過重といふものを少しでも柔らげてやりたい、救つてやりたいといふ深切は起るべきものゝ思ふのであります。一體教育といふ仕事は、そんなこゝでどうするかと云つたようなことが教育者の癖であります。そのいかつい教育者の態度から云ひますと、都會の子供は一層激しく都會生活の中に抛り出して行かなければならぬといふ風に結論が向ひ易いのでありますけれども、又子供といふものに則して、やさしく考へる氣持から致しますれば、私共はもう少し子供にいたはりたいような氣持がするのであります。いたはるといふことは、たゞ感情的なことでありますが、何も都會の子供にどうもご苦勞ですとか、大變でせうとか云はなくとも宜いのであります。が、都會の文化過重に對しまして、どういふ結果が子供の精神の上に及んで來るかと考へますと、單に勞はるといふだけに止まらずして問題は起つて來るかと思ふ。この激しい刺戟を受けて居ります子供は色々缺陷も生じるであらうが、要するに中心的な生活を失つて來るものであります。或は内部的な生活を失ふと申して宜しいかも知れない。何にしても刺戟が多いために、その刺戟に反應する反動が常に行はれて居るのであります。若し今日の東京に於て中心的な生活が續きましたら、體が幾つあつても足らないと思ひます。私は自動車のために繰かれる者は皆哲學者であらうと思ふのであります。自己といふものを色々考へて居るために、横から來ます自動車にも氣が付かないで繰かれてしまふのだと思ふ。繰かれないためにはどの位我々の神經を外に向つて忙しく使つて居るか分らない。さうせ疲れる神經であります。外に向つて使ふ疲勞が多いために、内に向ける生活が少しも養はれないで、子供が成長するためには勞はるといふことよりもつゝ大きな問題になりはしないかと思ふのであります。この内に向つて行くといふことは、人間が眞實に生きて行きます上に缺くべからざることであると思ふ。

私は外からの刺戟に反射して行きます時に、間に合ふ所の氣の利いた上手な巧みな生活が養はれて行くのであります。生活の眞實性といふことに於ては内に向ふ傾向が小さな時から養はれて居る必要が大いにあると考へる。これが私の都會に育つて居ります子供に就いて非常に心配するのであります。かう申しますと都會に居る人は皆無眞實のやうでありますし、その中で眞實を養つて居る皆さんは實に偉いといふことになるが、小さな子供を我々は一體どう教育しようとして居るかと云へば、何を描いても眞實性のある生活を養ふといふことは勿論のことであります。その眞實性の反対の方向にて居ります都會の生活といふものに就いては、これは勞はるといふことよりも、もう少し深い心配を私共に與へるものではないかと考へるのであります。

その内に向つての眞實といふことから、もう一つ次の問題に移ります。その眞實といふものは中の方に湛えて居るものであります。その中の方に湛えて居りますものが、本當の中の方から沁み出で来るといふ力が都會の子供に於て無くなつて来るかと思ふのであります。外から遇ふものに反射して行く働きが出来る、あのラッシュアワーの十字路を巧みに通り越して行くといふ方法と違ひます。眞實性が中に先づ養はれないのみならず、その中に持つて居るものも沁み出して行くことが出来ない。その沁み出して行くものを二つに分けて、感情としては潤ひでありますし、智能としてはオリジナリチー即ち創作創造の力であります。ものを造り出して行くといふ中からの働き、中から沁んで來る感情の潤ひといふものが、都會の生活に於ては非常な危険に曝されて居る考へて宜しいかと思ふ。かういふことを幾ら誇張して申しましてもきりのない事であつて、幾らでも強くかういふことを考へたいのであります。これは皆さんもお考へになつて居るゝゝゝ思ひます。さういふ危険の中に、さういふ眞實を日々に敢へて侵して居ります子供達を、都會で遊んで居るのを見ると、非常に心配する。あの車に轢かれはしないかといふ憂もありますが、その外に、あんな處であゝ氣を取られて遊

んで居つて、中の眞實性が何時養はれるであらうか。或は中から本當に泌み出でる生活が何處で出来るだらうか。さあこの子供に就いて心配になるのであります。然もその子供が皆様の幼稚園或は低學年にご厄介になつて居る。私は先づその缺陷に就いて先に考へてやる義務が都市幼稚園にあることを結論したいのであります。

(二) 都市幼稚園の特殊使命

幼稚園とは一體何だ^シいふことをこちらから膳立して持つて行きます前に、こゝに來て居る子供はこんなものであるといふことを基にして行かなければならぬ。皆さんの仰しやる、教育よりも先づ先に子供を愛する、こいふことはさういふことを言ふのではないか^シ私は思ふ。人をその缺陷に於て見、人をその弱點に於て勞はる^シいふことを於てしなければ、愛^シいふ言葉は使ひ途がない^シと思ふ。疲れてゐやうがぎんな感情にゐやうが、教育は教育、幼稚園は幼稚園^シいふことは、甚だこまやかさの足りない態度ではないか^シ考へるのであります。殊に幼稚園令の第一條が示して居ります所をもう一度見直してみます^シ、「幼稚園ハ心身ヲ健全ニ發達セシメ」^シ書いてある。心身を健全に發達せしめ^シいふことは、幼稚園に於て特に積極的にさういふ工夫^シ努力^シをする^シことが要求されて居るものでありますけれども、家庭社會の環境に於て心身の健全なる發達をみすく^シ害はれて居る^シいふことを考へた時に、私共は先づその缺陷をさうして補つてやらうか^シ考へなければならぬ。「幼稚園ハ善良ナル性情ヲ涵養シ」^シいふ言葉がありますが、善良なる性情^シいふものは、先刻私が申しました眞實^シか、中から泌み出る潤ひ^シかいふものであらう^シ考へるのであります。都會の日常生活にそれがこんなに缺けて居る子供だ^シいふことを見た時に、あの言葉を積極的に行ふ前に、その缺けて居る所を如何にして補ふか^シいふことは、が先づ私共の心に起る^シ思ふ。又「家庭教育ヲ補フヲ以テ目的トス」^シありますが、家庭教育を補ふ^シいふのは、屋根屋

を架す云つたように、家庭教育の上にもう一つ教育を付加へるこいふ意味でもありませうが、家庭教育があからさまに缺けて居ることを補ふ意味であることは申すまでもないとして、今日お互の幼稚園に来ます子供は家庭教育を云ひますけれども、その家庭の置かれたる社会環境から来る缺陷をその通り受けて居るこすれば、それを補つてやらなければならぬ。

そこで私は敢へて皆さまにお尋ねしたい。フレーベルの教育哲學、或はこの頃色々新しく出来ました児童の一般心理に基いての教育の御努力が澤山ありますと共に、あからさまに弱點を持つて来て居りますあの不幸なる子供のために、どの程度の御考慮を拂はれて居るかといふ問題であります。この都市幼稚園を云ふ特殊性に於て眺めました時に、どうしても我々の考へて行かなければならぬものがあるかと考へます。

倘てそれならば、都市幼稚園はさういふことに依つてその子供達の要求を満し、その缺陷を補つてやるかといふことを考へなければならぬ。私は都市幼稚園を云ふものは先づ子供を悪はせる場所でなければならぬ、と思ふのであります。皆さんはさういふお考があるか知りませんけれども、朝、あの、實に親知らず子知らずを云つたやうな處を幾つか踏切つて來たり、或は満員電車の中で揉まれて來た子供を、顔を見るも直ぐ、そら兒童教育をしようといふやうなことは、隨分無理な話であると思ひます。旅人が來ましたならば、兎に角まあお疲れでございませうからお休みなさいまし、色々こちからお目にかけたいとも、お話をしたいもあるけれども、まあく、お休みなさいといふのが、一つの情ではないかと思ふのですが、あの都會の子供に對しては、大根畠を通り越して來た子供とは全く違つた、教育の外に、勞りいふものが都會の幼稚園には溢るゝばかりになればならぬと思ひます。これは先生は自ら勞はつておいでになる。先生は朝早くおいでになりまして、まあく、一つ勞はれいふので、子供が來る頃には先生は勞はり

が済んで居りますから、子供の顔を見る——さあ——と云つて教育の方をお急ぎになる。これは結構である。教育を一刻も忽にしないといふことに就いては、これ位結構なことはないけれども、私が子供ならば、一寸先生の顔を見て、私が今こゝに来るにはどの位疲れて居るか察してくれませんかと云ひたいのであります。その勞りといふものは朝來ました時ばかりでなくして、それからもずっと必要であると思ふ。出来るだけあの子供に都會で得られない静けさを與へてやりたいと思ひます。都會の中にある幼稚園——窓の外を自動車の通つて居る幼稚園——併しながら我々の造つて居る幼稚園は都會の子供のためには、何の彼のいふ教育の前に、先づ綠の潤ひのあるオアシスでありたい。この中に来ましたならば、そこでこれをしてあれをさせていふ幼稚園としての色々なお仕事もありませうけれども、取敢へず休めてやりたい。今日の幼稚園がその點にされだけの考慮が拂はれて居るか。多少の懸念を持つのであります。亞米利加の幼稚園で……今から十年も前のことであります。それは手を叩くことである。この頃は餘り幼稚園で手を叩かないでせうが、昔は幼稚園と云へば手を叩いたものである。子供を集めまして、當り前に歩けば宜いのに、手を叩いて歩いたものである。子供も一緒に手を叩いて歩く。殊に先生は後向きになつて手を叩いて歩くのが幼稚園の恰好であります。さあ歌を歌ひませう。頻りに手を叩く。子供も矢張り手を叩く。之を亞米利加の人が大變心配しました。さう始終びしやく（笑聲）やつてゐては頭の休まる時がないではないか、之をやめようといふことが、その當時頻りに論ぜられたものであります。この手を叩くといふことをへもの騒がしさの飽満し切つて居ります子供には與ふべきではないと思ひます。まるで砂糖屋から來た子供にお菓子を食べさせるようなものである。或は都會の子供は屢々手を叩きます。これは疲れて來る興奮するためであります。今皆さんは私の話を靜かに聽いてゐて下さいますが、段々お疲れになりますと何となくおわ付いて来て、私の話が面白いから興奮したのかと思ふ

二、そうでなく、疲勞の興奮であつたりする。(笑聲) 残に先生のピアノたるや實に腕力的音樂であります。(笑聲) その腕力的である先生も亦疲れて居りますから、腕力位出さなければ手應えがしない。さあやりませう。非常時……(笑聲) ミ云つたやうな力でやるものであるから、さなきだに疲れて居る子供は尙ほ疲れてぢつとして居られません。子供は實は靜かなこゝが好きであります。先生の傍にやつて來まして、先生、ミ顔を見上げたりする。さあ來いミ云へば、さらばミいふやうなこゝで(笑聲) 反應して参ります。静かにしてるたら宜しいのであります。幼稚園で子供が時々ぼ一つとして居るのがあります。何だ子供のくせに生意氣な、初秋の空を眺めて、なんて云ひますけれども、ちつとも空を眺めるたりする子供があります。あのぢつと見て居るのは、矢張り子供の中には静けさといふものゝ要求があるためであります。自ら自分の心を勞はらうとする人間の要求があります。何も隠居さんばかりではない。けれども餘り静かばかりは子供に勿論ふさはしくありますまいが、子供ミは興奮するものである、子供ミは活動するものである、さあ來いミ云つてやるばかりが私は子供の本當の生活に觸れる途ではないと思ふ。その子供が静かにして居る時にがさへミやつたらさうか。ラヂオを各公園に据へ付けたらミいふことを考へて見たこゝがある。公園にラヂオをかけてやれば皆がただで聽けるから宜からうと思つた。所がある公園の専門家が私に教へてくれました。それは非常に間違つて居る。公園ミいふ處は、それは其處に來て遊びたい人があらうし、そこへ來て静けさを味ふ人もあるのだ、そこへもつて、たて續けにラヂオが鳴つて居つては公園の静けさに對する任務を果せなくなつてしまふミ云はれまして、なる程ミ思つたこゝがありますが、子供が幼稚園に來るのもさういふ氣持があるのでないかと思ひます。何しに來ましたかと聞いた時に、家では狭いから幼稚園に來て大いに暴れようと思ふ子供もありませうが、何分隣りがカフニーでせう、そして朝から晩までジャズでせう、又一方の隣りが鍛冶屋さんでせう、そこで私の心を勞はらうとして、幼稚園は私の心に静けさを與へるかと思つ

て來ました。さいふ子供もあらうと思ふ。それを腕力的ピアノで手印きで以つて征服してしまふのでは、私はさうも心遣の足りない所がありはしないかと思ふ。皆さんはそんな無情の方ではない、教育の名に於てその過ちをなさるのではないかと私は思ふのであります。そこで先づ静かさいふことを是非欲しい。何とかして静かにしてやりたいものであります。都會なればこそ静かにしてやりたいと思ふ。都會の幼稚園の建築で一番大事なことは、この頃亞米利加邊りでも認めて居りますが、防音装置であります。防音装置に對する考慮が十分に拂はれてあるかないかで、この問題に關心を持つて居るかざうかざいふことをの證據になつて來る。

第二には、何分都會の生活に於て伸びやかに自分を生活させることが出來ず、殊に都會生活は大人の便利の方から餘りに組織立てられて居りますので、雄大なるのんびりした氣持いふものが味はないのであります。田舎の子供生活——見るからになだらかな山のスロープ、廣い野原、想像しても羨ましい程ののんびりしたものと比べますと、鐵筋コンクリートがち／＼したアスファルトで固くなつて居ります。そこへ來ます子供は鐵筋コンクリートが洋服を著たような顔をして居る(笑聲)。さういふ間にはさまつて居る人間が何處かでいきを付きたい、靜けさんなどいふをつなものではないが、少し精神的のいきをつきたい。さに對して幼稚園いふものはどうしても非常なる伸びやかな世界を與へてやらなければならぬと思ふ。私は幼稚園に就いて、子供を出来るだけ劃一的でなく、規則的でなく、きちんと／＼取扱はないで、まあ／＼どちらかと云へば、出来るだけ子供の自由を尊重してやりたいいふ氣持を有しますのは、保育の教育哲學の方面から云ひましてもさういふ結論になりますが、殊に都會幼稚園に於て伸びやかさを與へたいいふことをからそのことを主張したいのであります。

今日の幼稚園では、朝子供が來ますと、直ぐに先生がみんな揃ひましたかと仰しやる。これは小學校の先生もさうか

思ひます。これは軍人ご教育者の口癖であります。揃ひましたか？と仰しやる。揃はなくては何も出来ないと思つて居るのが一つの通例であります。子供は揃はうなんて思つて幼稚園に來るのはありません。御神輿でも擔がうといふ時には、さうだい若い士揃つたか？（笑聲）揃はなければ擔げませんから必要であります。子供の世界には揃ふなんていふことは少しも必要がありません。所が疲れた先生はさういふ形式に陥ります。そこで人々の子供なきは眼に入らない。さうして揃つたか揃つたかと仰しやる。揃つたら並べと仰しやる。並ぶためにはきちつと揃はなければならぬ。實に今日の幼稚園の中に揃へるといふ氣持がきの位はびこつて居るかといふことは、皆さんのがお考へになつたなら分る。その揃へるといふ要求が子供の伸びやかさに對して非常な害を與へるものであると私は考へて居る。さうでせう。ぶらつて來て、段段植えて、段々にその生活をして、あゝあなた來たか、お前もゐたのかといふ位のことまで幼稚園は宜くないかと思ふ。一朝來たのを集めて、人員點呼をして、誰が何分遅れて、何の組は出席はさうで、赤い丸青い丸を貼付けて、幼稚園が見えると遅れはしないかといふ心配を子供にさせるることは、訓練から云へば必要なことでせうけれども、私は、子供が餘り可愛さうですから、訓練の方を引込みます。そんなことで教育が出来るかと仰しやるならば、私は教育しないで子供を可愛がる。教育よりも子供を可愛がる方がきの位大切なことであるか分らぬのであります。子供が揃へるといふ要求のためにぎざちない形式の中に入れられて、集つて来る、揃つて仕事をする。一體何をしましたか。揃へた（笑聲）。それで終つてしまふ。あなたはこの頃かなり上手になつた、あなたが一寸睨むと揃ふ、といふやうになつて來ました（笑聲）。皆さんの家へお客様さんが來ました時に、そんなに整列させる人はあるまいと思ふ。どうかもう少し子供を自由にさせたいと思ふ。自由云ふとさんになるかと思ふ方があるかも知れませんが、子供は自由に云つてもそんなに自由にはなりません。止めようとするから自由を懲しがる。自由にやらして御覽なさい。彼らでも食べなさいといふと、子供はそんなに食べ

やしません。止せ止せこいふから頻りにつまみ食をしたくなるのであります。自由を與へた所で同じこゝであります。そんなんに反則はないと思ひます。都會の窮屈な生活から幼稚園に來ました當座は反動的に一寸やるか知れませんが、幼稚園はさういふ處だいふ感じが十分込んではしまへば、安心して子供は自由に止まつて居るものと思ふ。その所謂窮屈なこゝを私は出来るだけやめたいと思ふのであります。幼稚園がきち／＼した時間割で行く遣方に就いて私は餘り賛成を表しない。所謂時間割主義は先生の計畫として實に大事なこゝであるし、愉快なこゝであつて、少し神經衰弱になりかけて居るやうな人が作つた時間割を見ること實に大變なものである。何分何秒この秒をよさうかさうしやうか色々考へて居る(笑聲)。汽車の時間割を見ますと、何分に止つて何秒に出發するこ書いてあるけれども、實に汽車にはあの秒が關係して來るのであらうと思ふけれども、幼稚園の生活なさには秒なさは必要がなく、分なさもさうでも宜いと思ふ。その伸縮自在の中に子供を置くときに、外のこゝは兎に角こして、伸びやかさが味はひ得るこ思ふ。實驗教育學の方で、幼稚園幼兒の疲勞問題なごを考慮します。さうして比例を取りまして、何歳位の子供は何分するこ疲勞するかこいふこが分るこ、それを頻りに持つて來る人がある。お前はもう止しなさい。學術的にも疲勞する時間だから止しなさいといふ譯です(笑聲)。それから何分するこあこ何分遊び、又何分仕事をする。そこへ又揃へるが手傳つて來て、時間割をきちんとこころやる。あれだけが既に幼稚園の子供には無理な話だと思ふ。私はどうしてもあの窮屈なこゝをしなければ出來ないなら、幼稚園は寧ろ一寸考へものだこ思ひます。もつと自在の中に幼兒教育は幾らでも出来るこ私は考へるのでありますが、先づ時間割を非常に自由なものにしたいと思ふのであります。

殊に私は幼稚園に就いて所謂纖細主義云ひますか、非常に細いこゝをやる風が幼稚園にありますのを反対する。殊に早い話が手技手工であります。私の話を幾度聞いても宜いこ多田先生が云つて下さいましたから、私も幾度でも云ひます

が、實に小さいことをする。幼稚園云へば小さいことをするものと思はれて居る。それは細い指では細いことをすれば宜いことを考へるのは間違であつて、素人らしい考であります、指が細くて能力が低いから大きづばなことをしか出来ないことを考へて然るべきかと思ふのであります。實際幼稚園では本當に小さなことをさせる。私がフレーベルの幼稚園を訪ねました時に、フレーベル時代にやりました手技があんなに小さなものがいいふことを頻りに考へた。これはフレーベルの弟子達に小器用な人があつて、自分で教育の方針を忘れて小器用なことをやり出して、それで幼稚園の纖細主義といふやうなものが行はれて來たのではないか、その以前に於てなされたものはも少し大ざつぱかと思つて、色々古いものを探して見ました。フレーベルの時代がどうか知りませんけれども、其處に昔からあるものを見ますと、やはり小さな紙のものがやつてある。私は非常に情ないことを思つたのですが、又思ひ返して、こゝへ來てこの小さなことをやつた子供は百姓の子達であるといふことを考へた。實に大きな斜面と大きな平原と大きな牛と大きな豚と、大まかな生活で、飯を食ふにした所でこんな大きな茶椀だし、お母さんだつてこつこして大きい。ズボンにした所で折目がない、脚が五、六本入りさうなズボンを穿いて居る。都會の子供とは全く反対の生活の中に居ります子供がフレーベルの幼稚園に來ました時に、フレーベルはこれは少し筋肉を動かす練習をしなければならぬことを思ふ。であるからフレーベルがある小さなことをさせたのは、幼児の生活に向つてといふよりも、その田舎の大ざつぱな子供に對してといふのであつた。大規模のここは皆家でやつて居るのである。土をいぢつたり丸太棒を擔いたりすることは家でやつて居る。そこで幼稚園に來た時には小さい方の筋肉を使ふこの練習をやらしたことも無理もないと思はれますが、今日の都會に於ては、子供の心に對しましては總て實に纖細な刺戟ばかりがあるのであります。せめて幼稚園に來た時には大まかなものにしてやりたいと思ふ。大まかであるから、不細工でせう。不細工主義でも宜しい。餘り器用小細工に几帳面と云つたやうなことを捨てゝ大き

なものをやつたら宜いでせう。都會の子供はけらへして居りますから、大きな紙を澤山やつて折つてぶらん云へば、初の内は目を廻すか知れません。小さなものを持へるようだまかなるものは折目が旨く行かなければ、踏んだりして作るような大きなものを持へさせて、花一つ作る云つても大きづばなこをやれば、少しは窮屈な生活から救はれるかと思ふのであります。幼稚園に拜見に行きました。小さなものが並んで居るのを見ますと、私は實に子供のために悲しくなるのであります。あの小さなもののは年寄が好きである。年寄は自分の神經が少しほ一つとして來るので……私はよく知りませんけれども、さうだらうと思ふ……せめて何か小さな所へ自分を纏めて行きたい。そこで米の粒を見たならばその中に千字文が書いてあつたといふやうなものが面白い。眼が見えなくなつて來るこ小さなものが見たくなつて來るのであります。所が子供の神經はさういふ要求をしてゐない。外へ外へ伸びて行かうとして居る。それを押へて小さなものにしやうこしない方が宜しい。總て伸びやかにありたいと考へて居るのであります。子供の遊戯などに就いても同じこを考へますが、これは後に詳しく述べ上げたいと思ひます。

第三には、幼稚園には精神的方面から云ひましても施設的方面から云ひましても、潤ひといふものを與へたいと思ふ。都會の生活が乾燥したものでありますから、幼稚園には是非潤ひを與へたい。その潤ひを與へるには、精神的潤ひから云へば、先生の心から沁み出る潤ひがありますが、その施設に於ても色々しめつけさを與へてやりたいと思ふ。子供が来ます前には、都會の幼稚園では必ず入口に十分なる打水をして置きたいと思ひます。都會の幼稚園には必ずしめり氣のある植木鉢を置きたいと思ひます。そこへ来るこ何だかしつこりする潤ひを感じるようにしてやりたいと思ひます。今日都會を全部潤ひ多きものにしやうといふのが現代都市運動であります。中々さういふことは出來ないかも知れませんが、せめて幼稚園だけはさういふ風にしてやりたいと思ふのであります。さういふ静けさとか或は伸びやかさとか或は潤ひとか

いふものを與へまして、都會生活の中で締付けられて居ります窮屈な子供に樂をさせてやりたいと考へるのであります。色々さういふことを考へます外に、又都會の幼稚園の先生はかなりそこに氣を付ける必要があると考へるのであります。都會幼稚園の入口には青いものがありまして、水が撒いてある。子供がそこへ入つて来ますと、先生が静かに取扱つてやるのであります。その先生その人が亦、餘程さういふ方面に合致してゐなければならぬと思ふのであります。先生そのものを都會幼稚園に於て合致させるといふことは、甚だ植木なきを作るよりもむづかしい話でありますけれども、こゝでお見受けしました所、さういふことはないようでありますから、遠慮なく申しますが、時々この頃の幼稚園の先生に私のような氣の小さい者は見ただけでびつくりするような舞臺化粧をする人を見受けることがあります。殊にこの頃の化粧といふものは都會の忙しい中で眼を惹くように考へて居ります。當り前のことでは人が見てくれませんから、そんな忙しい人でも眼を惹かれざるを得ないようにやります。そのため着物の關係から云ひましても、化粧の關係から云ひましても、大變に濃艶なものになつて來た。殊に疲れて疲れて疲れきつた者がその疲れを刺戟的に慰められるといふよりも、刺戟的にもう一つ興奮させられるようにやるあの舞臺化粧と云つたやうなものが一體に入つて居るのであります。皆さんはかういふ御經驗があるかさうか知りませんけれども、舞臺ではレビューガールでも役者でもそんなに目立ちませんけれども、樂屋で會ひますと化粧かと思つてしまふ。あの遠距離に於てあのまぶしい中を目あてとしてやつて居ります化粧が、幼稚園の先生の風の中に入つて來たならば、大變なことであると思ひます。子供は往來では色々な人に遇ひませう。あんな氣狂のやうな人が満員電車にぶら下つて、然も頻りにおしゃれしてゐるのを子供は色々眼に付きませう。併し幼稚園へ來たら、先生がその顔を云ひ、その着物を云ひ實にこれおばさんと云つたやうな風でないといけない。私は幼稚園の子供がその先生から受けけるファースト・インプレッション即ち第一印象は實に子供の心を豊かにしてやるかさうかにあると思

よ。これは單に化粧ばかりではありません。先生が子供を迎へるに就いても、その位に笑つたら宜いか。そんらが非常にむづかしい點である。子供の顔を見るごと、いきなり教育を受けに來たのかと云つたやうな顔をしましては、今申した任務が果せないし、あなたの心を慰めるためだとかなりにつき笑ふと、先生そんなにお笑ひ下さらなくても宜しきございますが、こいふやうな氣持がするだらうとと思ふ。この先生が子供に合致して行く點が非常にむづかしいものであります。この所はごの位に笑つて、ごの位の風をしたら宜いか、たゞ漠然たる云ひ方であります。私の云ひたいのは、毎日同じような迎へ方をしてやりたいこいふ事であります。これが私の幼稚園及低學年先生に始終希望する所であります。子供が幼稚園に行き或は低學年の教室にあつち向きこつち向きに入つて居る所に、先生が來るのでありますから、先生が居らうともゐないが如く感じなくてはいかぬ。小さな子供が家へ歸りますと、お母さんがあります。するご子供は大聲で、「あ、お母さんがゐた」。そんなにはしません(笑聲)。「お母さんゐるか」おればそれでお仕舞になる。おればそれで安心する。所が今日は頻りに白くなつたりするごと、「お母さんどうしたの、お母さんどうしたの」と聞く。不斷の着物ごまるきり違つた着物を着たりするごと、「何處かに行くの」と聞きます。何處かに行くの、どうしたのといふことは、お母さんらしさから一寸離れて居ります。化粧が大變よく出來ましたね、なんてことは決して子供は云はない(笑聲)。これは子供ばかりではない。この樂に迎へるこいふ事に就いて、化粧ごとか着物ごとか態度ごかいふ事もありますが、むらになることがいけない。今の幼稚園はかなりさういふ事がありはしないかと心配するのであります。今日は先生機嫌が良いだらうがいいふやうなことを子供はかなり心配して來るのでないかと思ふ。それから會ひまして、後から子供がこそくやつて居ります。今日は風向がいゝぜ(笑聲)。所がこれは幼稚園の子供に隨分あるのです。殊に低學年になりますご一層子供に奇妙な心遣ひがありはせぬかと思はれる。「今日は静かに靜かに」と(笑聲)なんて云つてやつて居ります。その意味に於て私は

もう少し幼稚園の先生は子供を樂にして褒しいと思ふ。先生はいつでも同じ態度で、居るが如ぐるざるが如くであつて欲しい。中には居るが如くるざるが如くでは甚だ済まぬ。第一校長に對して済まぬといふやうなことを考へる人もあらうし、或は、教育者の任務として、居るからには居るようにならね、我こゝにあり(笑聲)名乗を上げる人がありますが、先生といふものはさう目立たない方が宜しいと思ふ。殊に低學年教育に於ては、先生は何處かにそつと居る人が宜い。子供は幼稚園が済みまして歸る時先生に挨拶をして歸りますが、居る間は先生は何處に居るか氣が付かない程度でなくてはいかぬ。自分達の家庭でもさうではありませんか。今日は家庭の誰が居るかといふことは見廻せば分る。一々やあ今日は息子が家に居る、といふやうなことは、放蕩癖の息子か何かであつて、今日はいゝ按配に家にゐてくれるといふやうな場合の外には、不斷家に居る者は、そんなことは考へて居るものではない。私は低學年の先生がその意味に於て餘り自分をボシチブ即ち積極的にでしやばらせることがなく、ネガチブに消極的にでしやばらせることが極めて大切な心遣ひかと思ふのであります。かういふ意味で設備とか方法とか先生とか色々なことに工夫をしまして、一般的任務の外に、都會に住つて居る子供であるといふことを念頭に置いて、出来るだけ勞り休ませ、その中に中権的生活をして居る彼等を導き得る機會を提供してやることこそは、大いに考慮してやらなければならぬことであると考へるのであります。

獨逸プロシヤの幼稚園規定

多田 鐵雄

I、前がき

獨逸、殊にプロシヤが就學前兒童中滿一歳以上の者を收容する保護施設を在來の幼稚園 Kindergarten に共に之を凡て幼稚園として取扱ふことにしてゐるには注目すべき事實である。白根氏は先に本誌にその實狀を紹介せられたが私はこゝにその法的基礎を紹介しやうと思ふ。尙保母養成に關しても著しい改善が加へられてゐるがその紹介は之を後日に俟たう。

II、幼稚園の概念

(A) 一九二〇年十一月九日付國民福祉省令

幼稚園とは満一歳以上六歳までの幼兒を而も十名以上を、一日中或ひは半日の間教育的世話の目的で收容する處の半公開 halb offen の幼兒保育施設なり。

幼稚園として承認される條件は次の如し。

- (1) 幼兒の在園及び保健的教育的世話に適當な保育室の諸設備。
- (2) 幼兒保育に適當な専門的に習熟の人物。

從來の種の施設にして幼兒學校 Kleinkinderschule、保護學校 Warteschule、託兒所 Bewahranstalt、迷謬所 Hort

その他々呼ばれたものは、爾後官公上の事務に於ては統一的に凡て幼稚園 Kindergarten なる名稱が用ひられた。

幼稚園は獨逸聯邦兒童福祉法令第一十九條の意味に於ける養護兒童施設 Pflegekinderanstalten なり。

上述の年齢上の條件に該當せらるか、又は一部分のみ該當する年齢の兒童に對する半公開的兒童保護施設は幼稚園に非ず。故にかかる施設は家庭保護に關する聯邦兒童福祉法令の規定に従ふ。(本稿にては以後、獨逸聯邦兒童福祉法令を單に福祉法令と略稱す)。

III、所管と監督

(A) 一九三〇年十一月九日付國民福祉省令

(a) 幼稚園に關する邦の監督は幼稚園在園児の必然的教育的保護及び保健的配慮を保全するを目的とする。それには各幼稚園が少くとも二年に一度は邦の監督を委託された職掌の者により視察されることが要す。

(b) 地方長官は専門的精通家のこの職掌への參加を可能ならしむるためこの視察を命ずる以前に縣の學務宗教部 Abteilung für Kirchen und Schulen 並びに縣參事官、衛生局參事官又出來得べくんば地方兒童局へ報不すべし。

(c) この繼續的監督は町村兒童課 die örtlichen Jugendämter に委託せらるゝことあり。但し地方長官は縣學務宗教部との協議により必要の場合にはその兒童課が經營主ならぬ幼稚園に限り視察遂行を兒童課に委託することができ。視察は専門的精通せる適切なる人物により行はるゝを要す。兒童課は視察に當つてこの視察に參加し得るために地方視學 Schulrat 及び縣囑託醫師 Kreisarzt に豫め通知すべし。兒童課は視察の結果を地方長官に通達すべし。

(d) 尚地方視學は方法上、教育上重要な事實を、縣囑託醫師は保健上重要な事實を注意するために隨時幼稚園を視

察する権限を有す。

(e) 不備除去のための命令はたゞ地方長官のみがなし得るものとす。

(f) 幼稚園經營當事者の財政的狀態を顧慮する故に幼稚園の設備に對する強制的最小限度要令の指令は考慮を要するも、個々の府縣に於て幼稚園設備の大綱が規定されることは必要かと思惟さる。これに關しては一九二三年八月十五日付の「兒童畫間ホームその他の設備に關する訓令」に表明された大綱が原則となり得べし。

既にラインブルーピンツその他二三の府縣に於て行はれた如く幼稚園の設備に對する大綱を地方長官と協力して制度するところを縣當局及び地方兒童局に余は要求する。地方兒童局の存在せぬ府縣に在つてはこの大綱の制定は地方長官指導の下に縣當局により企圖さるべきなり。この大綱の作成に當つては縣の學務部 Schulabteilung も参加すべし。

(B) 一九三〇年二月二十日付大臣訓令

一九二五年八月一日付國民福祉大臣訓令及び一九二六年六月二十二日付文部大臣訓令を變更し、こゝに幼稚園、保護學校その他に對する認可、福祉法令第二十條以下第二十三條の適用免除及び監督の権限規定を次の如く定む。

(I) 一八三九年十二月三十一日付閣令第一條に依つて要求せられたる幼稚園その他の設立の認可、及びその繼續的監督に就いては地方長官の權限とす。認可の決定に際しては地方長官は常に學務宗教部をも參加せしむべし。繼續的監督はそれが必要なる場合には、即ち學校技術的主要問題の檢討に當つては學務部との共同で行はる。地方視學をも加へるかは學務部に一任さる。

(II) 前記の規定は左の者に對しては適用されず。

(a) 學校幼稚園 Schulkindergarten (これは學齡兒にして身體的精神的發達の阻害されたるものを收容する幼稚園)

(b) 教員保母養成に仕へる幼稚園。

(c) 教育的試行として妥當する幼稚園。

この施設の設立認可及び福祉法令第一十條以下第十一十二條の規定適用免除を、(a)及び(c)に對しては縣の學務宗教部が、又(b)に對しては地方學務委員會 Provinzialschulkollegium が決定する。福祉法令該條の適用免除の許可及びその取消、並びに繼續的監督については地方長官も參與すべきである。

一九二五年八月一日付國民福祉大臣訓令に基く地方長官のその他の權限は侵害されるゝかなし。

(C) 一九三二年十一月四日付國民福祉省回章抜

一九三二年十月二十九日付第一次行政整理令に依り、幼兒學校、幼稚園、託兒所、保育所 Erziehungsanstalten 抱児院 Waisenhäuser、保護所 Rettungshäuser に對する所管は國民福祉省から文部省 das Ministerium für Wissenschaft, Kunst und Volksbildung に移る。

(註) 獨逸聯邦青少年福祉法令抜萃

第十九條。養護兒童とはそれが無償で何等か暫定的保護機關に收容されるべきことが既に確立して居らざる者にして規則的に、一日又は半日を繼續的に他人の世話になつてゐる十四歳以下の兒童を指す。

第二十條。養護兒童を收容する者は、それに就いて豫め青少年課の許可を要する。切迫せる場合には事後許可が即座に結果として生ずる。かかる兒童と共に一つの青少年課の管轄内に移住する者は、養護繼續についての許可を即刻受けねばならぬ。

兒童が無償で或ひは非營業的に暫定的保護機關に收容されるべきことが既に確立してゐる場合には青少年課への通告を以て足る。

第二十一條。この規定は若し嫡出の兒童が親戚及び第三親等の許で世話される場合には、その者が兒童を有料又は營業的に世話す

るのでない時は適用を受けぬ。

更に他區の學校へ通學するために一日中の一部分だけ世話されてゐる兒童、並びに他區の學校へ通學する目的で、その學校當局から適當とみとめられ又監督されてゐる家庭へ引取られてゐる兒童に對してこの規定は適用しない。
第二十二條。許可及び許可の取消の條件は第十五條に基いてなされるが、又は縣青少年局によつて更に詳細に規定されることを得。

兒童の身體的、精神的、道德的安寧がそれを要求する場合にばいの許可は取消されることあり。

第二十三條。許可の賦與及び取消は養護兒童所在の區の青少年課の権限にある。

第二十九條。縣青少年局は兒童養護の施設に對し、第二十條以下第二十三條の規定の適用免除をなし得る。この免除は或る施設の性質が養護兒童の收容に關して排斥すべき事實あるを縣青少年局が確認する場合にのみ拒否し得るものである。

四、幼稚園大綱

(A) 一九三〇年十一月九日付國民福祉大臣令

一、總 括

開放的 often 保護事業側が充分に調査して幼稚園へ收容する要ありとする幼兒を隨時收容し得るやう、保護事業側との密接な協力が望ましい。幼稚園は出來る限り休暇中でも開かれてあるべきである。

幼稚園の日々の保育時間は母の普通勞働時間に適應さるべきである。

幼稚園は療養的世話 Erholungsfürsorge の設備を幼兒のために利用することを試みるべきである。(給食、地方療養所等)

横臥保養 Liegekuren 及び空氣浴は薦めらるべきである。鹽泉浴が與へられる處では、充分なる給食の同時的施與な

しに行はれてはならぬ。

二、設備

(a) 部屋

現在の空間の取り方は出来るだけ次の限度でなさるべきである。

幼児三十名までは $5\text{ m.} \times 10\text{ m.}$ 即ち五十平方米の床を持つ空間。机椅子。それが幼児の遊戯室及び自由遊び室になり得るもの。二つの部屋があれば尚よい。三十名以上の幼児の場合には部屋は二つ、又はそれ以上。各幼児一人当たり一・五平方米の床、四乃至六立方米の空間、窓の廣さは少くとも床の五分の一で、南に面し、通風窓、洗濯可能なカーテン或ひは鎧戸。通風による空氣の屢々の更新が必要である。

床。床の掃除は衛生的的要求に適應してゐねばならぬ。
壁。下方半分が洗ひ得るもの。

暖房。蒸氣暖房設備。ストーブ。蒸發鉢。ストーブの時は格子の圍ひをする。

洗面所浴室。五名乃至十名に一つ宛ての桶、又は取付けの洗面器。流し場。各幼児は各自の（自宅から持参するか、又は施設に備付の）ハンカチ及び洗ひ布、歯ブラシを持たねばならぬ。充分なる數だけの桶。應急用の綿帶箱。
便所。男女別々の間取。他の部屋から少し離れて、通風よく、十二名乃至十五名の幼児に一つ宛ての數。高さ一四種。
充分なる洗滌、掃除。

脱衣設備。脱衣室は別に設けるか、止むを得ざる時は廊下に設備する。

(b) 設備

部屋の設備は家庭の居間に適合するものにして、學校教室の外觀を持たざるやうにあらう。家具は幼兒に相應した大きさのもの。簡単で持ち運びの容易なもの、洗ひ得るもの。圓卓が良い。

一一一の遊戲具、作業具は缺くべからず。（廢物利用にて也可）

中食が園で與へられる場合には、食後の休息のための横臥機會を重視すること。掛蒲團。茶碗。コップ。箸。

(c) 園 庭

砂場の有る半ば蔭のある庭、又は遊戲園。止むなき時は近隣に庭を借りる也可。

(d) 職 員

三十名の幼兒までは一人の保育事業的に養成されたる保姆。三十名以上六十名までは二の保姆に、同様に保育事業的に養成された助手が立たねばならぬ。

可成大きい幼稚園に在つては成る可く保導官 Jugendleiterin じゅの指導が委ねられるべきだ。その際三十名毎に専門的に養成された助手が補助すべきである。

職員に對しては一日の経過中に、一時間の休息時間の機會が與へられ、一年間の経過中は四週間の休暇が與へらるべきである。

職員は部屋の掃除に從事すべきでない。

保育及び身體的世話は、温き感情を持つて専門的に養成され特に適性の、又實際經驗深い人格に指導が委ね得られて初めて遂行されるものである。

保姆はその外に、兩親の夕、幼兒の兩親との面談、訪問によりて兩者の密接な關係を樹立すべきことを知らねばならぬ。

ぬ。

保姆はその區域の凡ゆる保護機關と互に聯絡を取つてゐねばならぬ。

(e) 醫的監督

幼稚園は醫的に監督さるべきである。

特別の事情生じた場合、直ちに醫師の手を求めることが可能でなければならぬ。

傳染病が發生した時は閉園の要否に就き直ちに監督醫師の意見が求められねばならぬ。

三、作業の形成

幼稚園に於ては數時間、又は一日に涉つて教育的、保健的世話をなされねばならぬ。

幼兒は身體、精神、情操が促進されるべきである。幼兒に對しては充分考慮された遊戯と作業の交替、休息と運動の交替によつて多方面的發展の可能性が與へられねばならぬ。幼兒の獨立性、獨立性の涵養も配慮されるべきである。

就中、幼稚園に於ては喜悦、愉快が支配してゐねばならぬ。

幼兒に行はしむる家庭的仕事としては例へば、部屋の整頓、食器洗ひ等が考へられる。夏季には庭園作業、成るべく幼兒各自の花園での作業が生々した教材である。それと共に室内植物、家畜の世話の概略が教へられるべきである。

目的のない作業は避けるべきである。同様に又身體の姿勢に悪影響を及ぼし又視力に影響する如き作業も、いかなる方法であつても小學校の課題に手出しをしてはならぬ。幼兒の身體的世話としては——それは毎日規則的な時間割でなされるべきであるが——日々の點検(病氣の疑ひある幼兒の即刻隔離、皮膚、毛髮、齒の世話の手引、運動服での體操等)がある。入浴は何等かの理由で自宅でなし得ない幼兒に對しては必ずさせねばならぬ。食事前の手洗ひ、爪掃除。毛髮は一週

に一回検査するを要す。歯は自宅から持參の歯ブラシで出来るなら、朝早く食後にみがかれるのを可さず。

(B) 一九三二年六月三十日付國民福祉省令

幼稚園設置の許可は一八三九年十一月三十一日付の閣令第一條に基き與へられる。この規定は第一條に於て私立學校及び私立教育施設は唯それが實際の需要に相應する處でのみ、従つて學齡兒童に對する教育に就いて公立の學校のみによつては充分ならざる處でのみ許される、ことを規定してゐる。この規定は直接にはたゞ學齡兒童に對する施設のみに關するものであるが、その第十一條に未だ學齡に達せぬ兒童の保護學校も同様に教育施設なりと書き現はされてゐる故に、幼稚園に對しても上記の規定が適用されるべきである。

五、學校幼稚園 Schulkindergarten

(A) 一九三二年一月十九日付訓令

一九三〇年十一月八日付訓令に基いてなされた府縣當局の報告に徵して、プロシヤに在る八十八個の學校幼稚園が、學校から取殘されてゐる兒童の發達を本質的に増進せしむるに全く適當なることが明かである。學校幼稚園が現在の困難時代を乘越えて保持され促進されることは學校制度側の關心事に屬す。故に府縣當局は取殘された學齡兒童の兩親がこの學校幼稚園の存在と價值に注目するやう配慮すべき地方視學を任命すべきであらう。學校幼稚園に對しては該當の取殘された兒童のリストが手交されるべきなり。

學校幼稚園の大綱の發布は保管されてゐる。

【書須必の園幼稚】

七版突破

東京女子高等師範學校 教授・附屬幼稚園主事

倉橋惣三先生新著

幼稚保育法眞諦

○倉橋先生保育眞諦

日本のフレーベル倉橋先生の代表的名著茲に出来。發行後僅に數ヶ月にして既に七版を突破し、我が國保育界の明星として一齊に大歓迎を受け愛讀又熱讀さる。東京女高師附屬幼稚園の園児等は先生を「おちさん」と稱して相敬慕。此の倉橋先生の保育法の眞諦即コツを悉く本書に披瀝する。

○現代の保育法原論

本書は懇願數年初めて完成されたる新著にて、現代に於て最もも完備し且系統ある保育法原論である。倉橋先生は稀に見る純眞の教育者として著書少く系統ある力作は本書のみ。著者は幼児教育並に家庭教育の第一人者として甚に畏くも此點に御關心深き兩陛下の御前講演の榮に浴され又屢々官家よりの御招聘ある我國保育界の耆宿にて、本邦第一の東京女高師附屬幼稚園主事と文部省社會教育官とを兼ねられ人間味豊かな人格者として定評の士である。

○保育界耆宿の力作

著者は幼児教育並に家庭教育の第一人者として甚に畏くも此點に御關心深き兩陛下の御前講演の榮に浴され又屢々官家よりの御招聘ある我國保育界の耆宿にて、本邦第一の東京女高師附屬幼稚園主事と文部省社會教育官とを兼ねられ人間味豊かな人格者として定評の士である。

次目本色並に

六五四三 幼幼幼生兒生活へ教育の自己充實
二一形態兒生活と幼稚園生活
第一篇 幼稚園保育法の眞諦
七位 誘導案の保育案の意義
一二無案保育案の實際

八七保育案立案と保育項目
九保母の創造性
一九保育過程實際

一第一篇 幼稚園の個性と保育の陶冶
二第二篇 幼稚園に於ける保育の実際
三第三篇 幼稚園の创造性
四第四篇 幼稚園の個性と保育の実際

五第五篇 保育案立案と保育項目
六第六篇 保育案立案と自由度及び徹底度
七第七篇 保育案と保母の創造性
八第八篇 保育案立案と保母の創造性
九第九篇 保育過程實際

一五一〇 大人形への家を中心として
二二大人形への家を中心として
三三大人形への家を中心として
四五大人形への家を中心として
五六大人形への家を中心として
七八大人形への家を中心として
九九大人形への家を中心として
一〇〇大人形への家を中心として

▲▲▲口繪四六版三百餘頁頗る美本
保育法の實際實景紹介
定價三圓五十錢送十六錢

大阪 社會貯蓄銀行
東京 京 振替
神田 神田
東京 東京
目丁一町一保田
番七三〇

【書良の備必須必】

東京女高師教授倉橋物三先生保母新庄よしこ先生共著
同校現附屬幼稚園主事

洋綴天金上製
定價三圓八十錢

日本幼稚園史

特色

大好評

東京女子高等
師範學校教授
現附屬小學
校主事

堀

七藏
生先著

四六判 四一六頁
美本
價二圓八十錢
送十六錢

一二、二十年苦心の結晶漸く完成す
一二、草稿千餘枚挿繪數百整理成る
三、日本幼稚園史として比類なし
大震災にて一時頓坐更に繼續再計畫の上蒐集考察研究完成す。
倉橋先生畢生の努力と新庄先生懸命の助力にて此の名著成る。
皇后陛下行啓の榮を得し我が國幼稚園本山の大記念塔。

三二、幼稚園保育上の重要問題に就ての實際的見地に立ち保育實踐問題に就ての實際的詳述付けられ特針

(一)理論 (二)實際 (三)小學校との連絡問題につき詳述されし權威書。主事たりし先生が現附屬小學校たる地位より懇親し盡さる。

幼稚園保育の諸問題

兌發

東大
京阪

番七三〇一京東替振・目丁一町保神・區神市京東
番六五五九三阪大替振・地番八二目丁一町寺堂安内・區南市阪大

小學校入學検定を終へて（三）

附屬小學校主事 堀 七 藏

抽籤に當るごとく、一も二もなく入學が出來たやうに考へる方が多いのには、當事者として頗る困却する。何しろ四百三十人から七十人の當り籤、六人に一人の割合で籤に當つたのであるから、保護者がお喜びになるのも無理はない。殊に我が児はござ知能の發達も身體の發育もよいものがないと思つてゐる親心としては、誠に當然である。

しかし事實は、まだ検定によつて三人半に一人しか入學出來ぬのである。七十人から二十人しか入學出來ないのであるから抽籤で入學候補者となつたからごとく、もう鬼の首でも取つたよう考へられては困る。當事者からいへば、わざく一日に検査出来るだけの多くを當り籤なし、入學候補者として検定するのは、その中から成るべく身體の健全に發育したもので、知能もよく發達したものを入學させることは勿論である。悉くを入學させるための検定ではない。三日間に亘つて行ふ入學検定は、抽籤によつて入學候補者となつたものについて、身體・精神の發達を成るべく公平に検定し比較してその中から入學者を決定する目的を以て行はれるのである。この點は保護者は勿論、幼稚園の保姆も十分考慮せられねばならぬ。

二
抽籤がまだ行はれない前から、入學検定に對する準備の方法をお尋ねになる方が多い。これは至極結構なこことである。

一體入學検定に對する準備は、あつてないやうなものであり、無いやうで有るのが小學校の入學検定準備である。

入學検定の當事者として、世間で考へるやうな検定準備ならばない方がよいと考へる。小學校に入學してから學ぶべき文字の知識や、數計算などの知識は入學検定を受けるには役立たぬ。小學校入學の検定は満六歳児としてされ位知能が發達してゐるかを比較することを目的として行はれる。され位、文字の知識をもつてゐるか、され位、數の計算が出来るかを檢するのはその精神でない。従つて入學検定を受けるために、幼稚園や家庭で大急ぎに片假名を教へるとか、平假名まで教へてゐるといふやうな準備は不要である。また二十まで數へることを教へるとか、百まで數へることを教へるとか、或はまた一・二・三……の數字を教へることも、1・2・3……等の數字を知らせてゐるといふやうな準備も不要である。大人から急いでしらへに觀念内容の伴はない入智慧をなすやうな検定準備ならば寧ろ行はないがよい。

II

入學検定の際に一言も答へないで、次から次々通る幼兒がある。その中に、人前ではにかんでさうしても口を開かぬといふ子供がある。幼稚園に入園する頃ならば、かかる幼兒があつても左程問題ではないが、小學校に入學する位の幼兒で、一言も口を開かないものがあれば、それは普通でない。それで他人からものを問はれたならば答へるやうに躊躇ることが検定の一の準備である。「家族にはおしゃべりして困る位であるが」といふ子供で、往々検定のとき一言も發せぬといふものがある。雉子も鳴かずば撃たれまいで、一言も返答せぬのでは検定するところが出来ない。それで検定に不合格となることが多いから、この點に於ては検定の準備が必要である。しかし普通には特別な準備が必要でない。それを親が八ヶましく、「検定で何がきかれたたらよく考へてお答へするのですよ」と、教訓した爲めに、一言も發言せずに検定を通過するといふ子供が時にはある。「ちうして答へなかつたの」と、検定の後に母親が尋ねる、「ダツテ お母さまがよく考へて

返事せよといつたから、私よく考へてゐたの、するに先生はよし次へも答へられなかつた」といふ實例がある。これは答へることについての準備が大人の考で却つて害をなしたことになる。

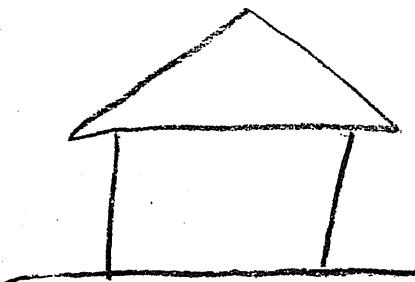
また曾つて某大臣のお孫さんが某附屬小學校入學検定を受けたときの話である。「このボールを出来るだけ遠くに投げて御覽なさい」といはれて、その子供さんは、「そんな小さなボールは投げない。地球のやうに大きなボールなら投げる」といつて、検定官をてこずらせ、また「先生のやうなものには答へない」といつて、検定官を面喰はせたものがある。これは極く特殊な實例であるが、はたから書生なぞが下らぬ笑談をいつたのが災ひしたものである。かるる入學検定の準備はない方がよいことを勿論である。

また今年の検定で、四肢の動きを検するために、五人位づゝ走らせたとき、一人泣いた兒があつた。その兒は精神發達のテストをなす検定室に入つても泣き止まず、終りまで一言もいはず泣通した。他の子供に妨げとなるので、検査室外に出さうとして動がない。検定を受けるのだといつて泣いてゐる。それではこいつて検定を受けるやうに、すゝめても矢張検定を受けないといはれてる。誠に妙であつた。しかし「走つたときまけた」といふ口惜しさが原因であつたことが後で分つた。大人の考へ及ばぬところに子供に意地があるから、検定を受ける準備にも氣をつけねばならぬ。

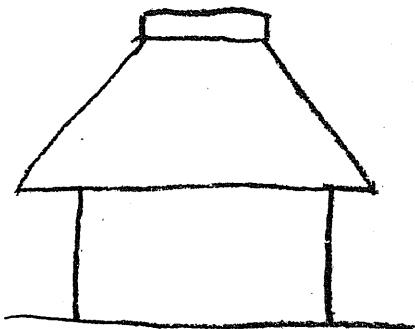
四

小學校の入學検定は入學せんとする兒童の知能を検定するもので、はたからざれ位、いろいろの知識を授けてあるかを検査するのが目的でない。それにもかゝはらず、父兄や保姆が入學検定の準備をして、いろいろの知識を授ける人が多い。それは大變なあやまりである。大人が急ごしらへに、こんなことが出るかも知れないからこそ、所謂山をかけて、検定の準備をなすことが多い、けれどもそれは悉く検定者の方には入智慧があることが分る。所謂鷺鶴返しに答へるのが子供で

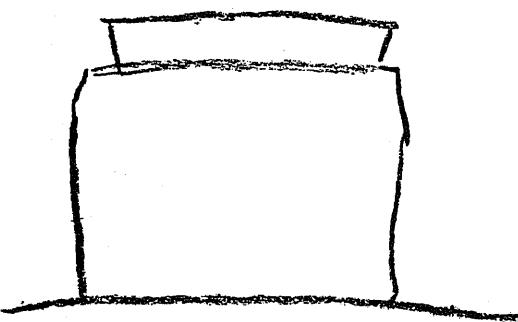
(4)



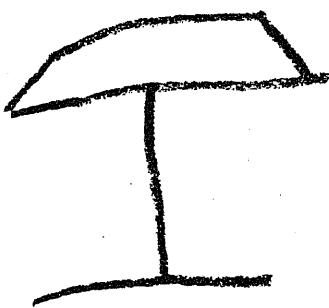
(1)



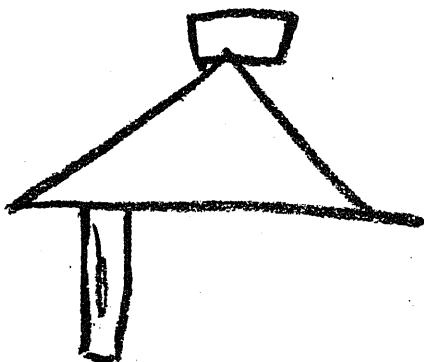
(5)



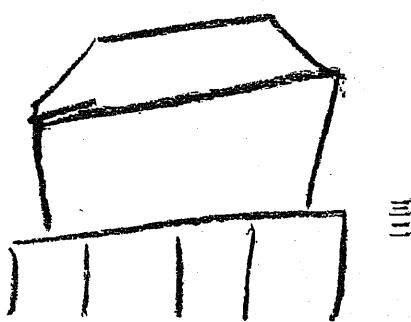
(2)



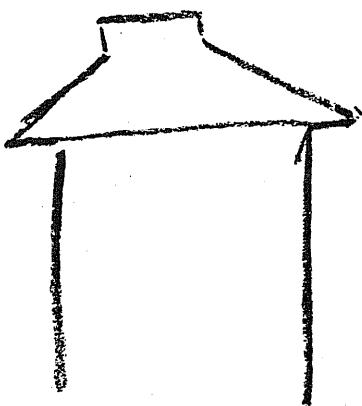
(6)



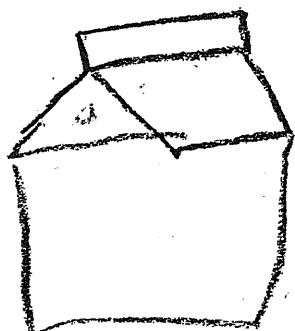
(3)



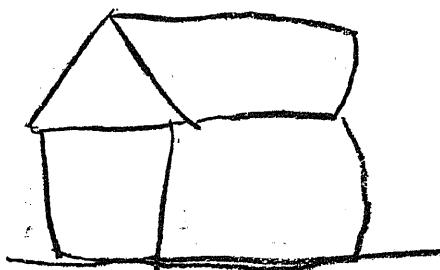
(7)



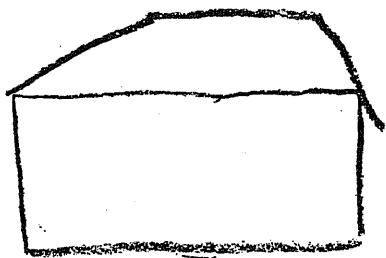
(10)



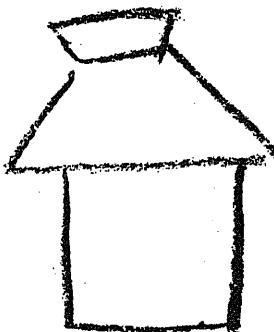
(11)



(8)



(9)



(12)

[11]



あるから、検定者の出した問には答へずして、他のこゝを答へてゐる場合が多い。また「教はつて來たか」尋ねるこゝ、子供は正直であるから、「お母さんにおそはつた」こゝが、幼稚園の先生におそはつた」こゝが、答へるので、折角親や保母が急ぎしらへに教へたのが害になるこゝが頗る多い。検定者の方には控室にまで行かなくとも、保母が三日間も、五日間も出張して検定のすんだものから検定の問題をきいて、次の準備や入智慧に苦心して居るこゝが、被検定児を通して分る位である。

今年の検定に於て「繪を見せますからよくみてゐてその通りの色のクレヨンでお書きなさい」といつて(1)圖の如き繪を三十秒ばかりよく観せて置き、それを記憶によつて描かせたこゝがあつた。するこ(1)の如く範畫の通りに書けたものは素直に検定者の方で観せた繪をよく見て記憶し、その通り表現したものである。こ(2)から(12)までの如きいろいろ違つた繪を描くものが多い。観たのこ違はないかと、念を押せば、書き直さうとするものもあるが、よく観なかつた爲に記憶が、明白でないのが多い、中には(2)の如く數年前の検定に出たものを練習させられたので、それを書くといつたものがある。數年前、簡単に電氣スタンドの線畫を描かせたのを丹念に教へたものであり、子供はそれに氣をこられてゐるので、今新に観せられた範畫を全く観なかつた爲に、(2)の表現こなつてゐる。しかも數年前の電氣スタンドこも異なるこころが面白い。検定者の方では面白いが、折角の準備が災したこゝは保母の罪か親の罪か。

(3)でも(4)でも、また(5)から(12)までも、描く子供の心理に立てるこゝ、それぐ理由があり、そこに保母や親の間違つた準備のために災せられた點が多いに相違ない。殊に(4)こ(9)こは色の見分けが出来てゐない點に注意を要する。色の見分けが唯出鱈目であるか、または色盲のためであるか。

この實例でも分るやうに「家を描くのだから、こんなに書け」と準備するならば、その準備が非常に災いする。しかし與へられた繪をよく見る態度習慣を養ふこゝや、色を見分ける力や記憶せるものを素直にその儘表現する力を養ふやうな準備は無論大切である。

獨逸の人形芝居に就いて

東山新吉

子供達に三つて一番樂しいクリスマスが近づく、獨逸の町々には市^{イチ}が立ちます。曲馬園や見世物や色々な賣店が賑やかに並ぶ中を兩親に連れられて好奇の眼を見張りながら歩るいてる子供達の姿は誠に可愛いゝものです。中でも子供の大喜びなのはカスバー人形芝居であります。カスバー言ふのは主役の人形の名で、日本ではギニヨール人形と呼んでゐる式の、手に嵌めて動かす人形です。首は木製で、簡単な着物と手がついてゐます。陽氣で、お人好しで義俠心に富み、飽迄悪に對して戦ふのがカスバーの性格です。こんながり鼻に赤い頬、鈴のついた頭巾に道化の衣裳、カスバーが舞臺に現れて「サア、皆さん集つたかね？」と見物の子供達に話し掛けると「あゝ、皆居るよ！」と一齊に答へます。これでカスバーと子供達は全く一緒の遊び仲間になつてしまひます。惡魔が良を作つてカスバーを待つてゐます。カスバーが陽気に歌ひながらやつて來て、うつかり良に掛けますが、子供の方を見て、「皆さん、此處へ入つても大丈夫かね？」と聞きますと子供達は聲を揃へて、「いけない、いけない！」と叫びます。惡魔が何とか説明をしてカスバーを欺さうとするが、子供達は躍起になつて、「カスバー、それは惡魔が欺してゐるのだよ！」と叫んで注意をします。最後は何時もカスバーの勝で、王子、王女や、村の少年少女を惡魔や魔法使の手から救ふのです。獨逸の傳説、グリム童話等を演じるのですが、必ずカスバーが出て來ます。

カスバー人形の起源は遠く中世の教會で行はれた宗教的な操り人形に發してゐることの事です。それは勿論子供を相手

カーパーの鬼退治



新

象は
馬鈴薯で
鼻は人參である

新吉寧



魔法使

祖母さん

男子

三六

したものでは無く嚴肅な宗教劇であつたのが、時を経て消滅してしまつたのに、唯一つ道化の人形が生き残つたのです。そして子供の友達として今尚盛んに活躍をしてゐます。このカスパーも大戦後忘れられてゐたのですが、此頃國粹保存の運動と共に復活したものです。

次に操り人形としてはミュンヘンに有名な一座があり、度々歐洲各地を巡業して好評を博して居ります。舞臺の美しさ、操りの巧妙さは實に立派なもので、アンデルゼンの童話等を演じて全く藝術的な香氣高い表現を示して居ります。最近にはザルツブルクの操人形一座がアイヘル教授指導の下に獨逸各地を巡つてゐる事を聞きました。これ等に比べますとカスパー人形芝居の方は土の臭ひのする全く土俗そのもので、藝術と言ふ見地からは比較になりませんが然し又言ふに言はれぬ親しみがあつて子供には無條件で喜ばれてゐる處に價值があると思ひます。

其の他獨逸の學校ではよく生徒が人形芝居を演じますが中々可愛いゝものです。人形は全て手製で、昨年柏林のさる女學校の生徒のを見ましたが、人形の頭は馬鈴薯で鼻は人参の先で作つてあり、此の繪で御覽の通り簡単なものです。これが實際に演じられる全く生々こ動き、寫實的な人形でないだけに、反つて豊にお伽の國の雰圍氣を作ります。龍等は人參で作つてあり、龍退治に使ふ槍は果物を食べる時のフォークであります。全てあり合せのものを應用して手輕に出来、而も趣の深いものと思ひます。

學校や家庭用としてヴァルドルフ製のカスパー人形が色々賣り出されて居りますが、これは上品なもので、よく考へて造つてあります。又人形芝居の筋本等も澤山發行されて居ります。

昭和十年二月九日　於　伯　林

募 集
童 話

入選発表表

三八

本誌新年號に募集發表致しました幼兒童話は最初の試みにも拘らず去る二月末日までに皆様の御熱心の結晶として全國から三十餘篇の集りを見ました。以來當研究部に於て選衡を重ねてゐましたが、左の三氏の三篇が入選となりました。

入選作は本號に掲載致してあります。が選外佳作は順次に掲載の豫定であります。

尚氏原銀氏は御存じの通り我國幼稚園の先驅者であり、閑地にあつても常に斯界に強き關心を寄せられる保育界の老先輩であります。

ね ず み の 話

熱海町西山 氏 原 銀氏

不思議な金の鉛

大垣市立幼稚園 青木信子氏

へうたんラヂオ

大磯幼稚園 須子啓子氏

童幼兒話の話

—本會懸賞募集入選作—

録

女

ニコニコした大黒様、ニコニコした戎様の二人の神様が居らつしやいました。處でいたづらのねずみが、大黒様の大切にして居らつしやる、大きな袋や俵をメチャメチャにかぢりましたり、戎様の大切な釣竿をかぢり又お釣りになりました鯛をかぢりまして、大層いたづらをいたしましたので、大黒様、戎様がねずみをお呼びになり、「これこれねずみ達、お前等はいたづらを止めなければ、夜暗い時物が見えなくなる様にし、又堅い物をかぢる強い歯を弱くしてやるが、それでは困るだらう、だから之れからいたづらを止めろ」とお仰いました。そこでねずみ達は一週間程はおこなしくしていたづらは致しませんでしたが、又いたづらを初めました、大黒様、戎様はトウ〜〜お怒りになりまして、ねズみは夜になるご少しも物が見えませず、又

何かかぢろうとして何もかぢれません様になさいました、ねずみは大層困りまして、大黒様
ご戎様の處へあやまりに参りました、「これからは決していたづらは致しませんから、ドウジ
元の通りに夜目の見える様に、又固い物のかぢれる様にして下さいまし、此お禮にはあなた様
のお困りの時にはキットお助け致しますからドウカお許し下さいまし」とお願ひしましたので、
許しておやりになりました。

或る時大黒様ご戎様が、山の奥に大層美しく花が咲いて居る事をお聞きになりました。お二
人でお花見にお山にお上りなります。それはそれは美しい花盛りでありました。これは綺麗
だぞ喜んでお眺めになつて、お歸りの時も忘れてトウ〜日が暮れてしまひました。驚いて急
いで山を下りてお出になります。暗くなつて道が分らなくなつて困つてお出になる處へ、ね
ずみが大勢お迎ひに來まして二本の紐を持つて一本を大黒様、一本を戎様にお持になる様ご申
しまして、其紐のはしを大勢のねずみ達がくはへて、山道を樂に下りる事が出来、お歸りが出
来ました。

幼兒童話 不思議な金の鈴

— 本會懸賞募集入選作 —

信子

保彦さんは今年七つ、毎日お幼稚園へ行つて元氣にお友達と仲よく遊びするよい子でした。或日曜の朝保彦さんはおうちの裏の畠できれいなお花に水をやつてゐました。するしそうそばで何だかガサ～～ガサ～～音がしますから、何かるのかどう草の下をのぞきました。するこううでせう、一匹の鈴蟲が蛙に脚をくはへられて逃げやうござた～～やつてゐるではありますまいか、保彦さんは心の優しいお子ですから早速蛙を捕へて鈴蟲を逃がしてやりました。そうして蛙には「鈴蟲さんなんかへてはいけないよ」といつてはなしてやりました。ほんとうに保彦さんは優しいお子ですね。

丁度その夜でした保彦さんはあたかいでふさんの中ですやねんねしてゐました。する

「夜中に誰か「坊ちゃん」呼びました。保彦さんはふと日をあいて見ます。今日の鈴蟲さんが枕もとにすはつておじぎをしてるました。「あゝ鈴蟲さん何しに來たの」と聞きます。「今日はあやうい所をお助け下さいましてありがとうございます。御座いました。お禮の印にこの金の鈴を差上げますから坊ちゃんが何か大層お困りになつた時にこの鈴を三度振つて下さる」といつて「いかへ行つてしまひました。保彦さんは「ありがたう」とつてそれをお洋服のポケットの中へ入れておきました。

その次の日曜に保彦さんは仲よしのボチ、お山へ遊びに行きました。お山には椎や栗の實が澤山落ちてゐましたから大喜びで拾つてゐましたが袋にいっぱいになりましたのでポケットからお菓子を出して食べようとしてボチを見ましたが、ボチよ／＼呼びましたが來ませんから自分一人岩に腰かけてお菓子を食べながらボチの歸るのを待ちました。暫く待つてゐましたがボチは來ません。ボチよ／＼大きな聲で呼びましたがボチのかけて來る様子もありません。ボチはどうしたのでせう？（暫ク間ヲオク）さてボチは保彦さんが栗の實を拾つてゐ

る時お鼻をくんぐんならしながら何かさがしつゝお山の奥の方へ行くと大熊に出會つたのです。強いボチはすぐ飛びかゝつて熊とかみ合をしましたが、熊は中々強くボチの首輪をくはへて振り廻しました。首輪はぱつたりときれました。熊はさうくボチの首筋をくはへてお山の奥へさんく行きましたそうして大きな岩屋へはいつて行きました。そこにはライオン大王様がゐるのです。熊はボチを大王の前へつれて来て「今日はこんなよいものをうらへて来ました」といつておじぎをしました。大王は「やあこれはめづらしいものを捕つて來た晩の御馳走にしやう」といつて小屋の中へ入れてしまひました。熊は御ほうびを貰つて自分の穴へ歸りました。

こんな事を知らない保彦さんはいくら待つてもボチが來ないからボチよ／＼大聲で呼びながらだん／＼山の奥の方へ行きました。するごとく首輪が落ちてゐます。「おやつ」を拾つて見ますごボチの首輪です「やつ之れは大變だボチは何かにやられたかも知れない困つたなあ」と考へてゐましたがふごボケットの金の鈴の事を思ひ出し「そらく困つた時にこの鈴を振るよ

いのだ」ミ喜んでリン／＼リンリンリン／＼ミ一度振りましたら金色の鳩がバタ／＼／＼。だからか飛んで来て「坊ちゃん何御用ですか」ミひました。保彦さんは「あゝ鳩さんよく来てくれましたボチがるなくなつたからさがして下さご」ミひました。鳩さんは「はい」暫くお待ち下さる」ミバタ／＼／＼ミ飛んで行きましたが間もなく歸つて来て「ボチはライオン大王の所にやらへられてゐます」ミひました。

保彦さんは「ありがたうそれでは僕を案内して下さる」ミうつて鳩さんを案内にして山の奥へ奥へはひつて行きました。するこ突然岩かげから「ウォーシ」ミる聲、見るで大きな熊がさびかゝろうとしてるます。保彦さんはにこりとして金の鈴をリン／＼リン／＼ミ振りました。するミ不思議にも今迄がんばつてゐた熊が急に後をむいてそ／＼ミ逃げて行つてしまひました。保彦さんはこれは愉快々々元氣よく又出かけました。暫く行くと竹やぶの中でガサ／＼＼＼音がします「やつ又何かるかな」ミ思つて見ると驚いた、大きな虎が目をいかせた「ウォーッ」、「やつ之れは大變だ」ミ早速金の鈴をぶりましたするミ不思議にも今迄お

つてゐた虎公は、こつくらへて眠つてしまひました。

保彦さんは「これは面白い！」と大喜びでだんへ先へやつて行きました。暫く行く道のまん中に大きい岩があります。じやまだ岩だなあと思ひながら岩の上へ登りました。するとその岩がむく／＼起き上りました保彦さんはびっくりしました。よく見る、それは岩でなくて大きな象のせなかでした。象はお、つて鼻で保彦さんをまきつけ高く差し上げて今にも投げやうとした。投げられたら大變です。保彦さんは例の金の鉢をリン／＼リン／＼リン／＼、するりと下へおろし膝をあげ頭をさげてしまひました。そこで保彦さんは象の背に乗つて金の鍋の案内で岩又岩の山路をさんへ行きました。そうしてこう／＼大きな岩屋につきました。所が岩屋の入口は鐵の扉がぴつたりとしめてあつてはいる事が出来ません。保彦さんは象にこの扉を破れといひつけました。大力の象は扉に鼻をかけ、めり／＼こ破つてしまひました。此時心地よくるねむりをしてゐたライオン大王は、この音に目をさましたそうして、こちらを見ました。保彦さんが象に乗つてはいつて来るの

を見つけてライオン大王は「ウオーッ」とほえました。その聲のおそろしかいつたら岩屋も山も一度にくぐれてしまふから馬はれる位でした。そしてその眼はいかりに燃えて、らんくらかくやき、お口は火の様に真紅で身の毛もよだつ様なおろしい姿でした。

けれども保彦さんは平氣でにこ～しながらボケットの金の鎗を出してふりました。すると今迄勢きつてゐた大王様は見る間にうれしそうな優しいお顔になつて「タン～～タラララ、タン～～タララタータ～～タタタ～」とおどり出しました。そのおどりが如何にも面白いので保彦さんは手をうつて喜びました。すると奥の小屋からボチのなき聲が聞えて來ました。保彦さんは手をうつて喜びました。ボチは喜んでうびつきました。

保彦さんはボチを抱いて象の背にのつて山を下りました。ライオン大王はそんな事をちづくも知らないでいつまでも「タン～～タラララ」をおどつてゐましたから。

童幼兒　へうたんラヂオ 話

—本會懸賞募集入選作—

啓子

清兵衛さんはおじいさんです。

若い時から、それは働き者で、正直で、やさしい、いゝおじいさんです。

年をとつても、お天氣のよい日はかならず山へ行つたり、島へ行つたり、一生懸命働きます。ですから、おじいさんの島では、いつも、お芋が、おいしかったふきり、お大根が眞白なお顔を、土からのぞかせてゐました。

雨の降る日は、おじいさんはお家で、大好きなへうたんをみがくのでした。

せいべえじいさんは、とてもへうたんが好きでした。お庭のすみに、毎年種子を播いて育てたへうたんが、今では戸棚の中に、いっぱいになつてゐます。

大きいくうたんー

小さいくうたんー

長はそいの一

じつくり「みぢかいの一

されもへ面白い、」おじいさんは毎日眺めては喜んでるました。

* * *

雨が降つてゐる。

おじいさんのお家にーお庭にー

そして、薔の千葉の葉の上にー

おじいさんは、お家の中であぐらをかいて、「くうたん」をみがいてる。この間、おばあさ
んからもらったお空の様な色の絹の布で、とても「くうたん」が光つて來たぞ、と喜びながら。

おじいさんのお顔が映る程、光つて來た「くうたん」。

おじいさんは、高く上げたり、むかふへ離して見たり、近づけて見たり。

「され〜〜、みんな並べて見様、それが一等素的かな」

小さいへうたんー

大きいへうたんー

ほそ長いのー

じつくりみじかいのー

ぶらん〜〜天井から、たくさんのはうたんが下つて、下でおじいさんはニコ〜〜と眺めてゐる。

ボーッとお部屋の一方が明るくなつて、おじいさんの座つてゐるあちらの窓から、あ！何か飛び込んで来る様なー

おじいさんは、びっくりして見ました。

小さい小さい、小人が、みんな金色の帽子をかぶり、金色の靴をはいて、はいつて來るーは

いつて来る一何ノミなく、何十人ミなく、

お窓の處から、ピヨン～～ツーッーミ、はねて、跳んで、みんなミ、ノヘ行くのかと思ふか、おじいさんの下げた「へうたん」の中へはいつて行つて、あたりは真暗になりました。

氣がついて見るこいつかすつかり日が暮れて、臺所で、何かお夕飯の支度をカタコト云はせて居たおばあさんは、何處へ行つたのかひつそりさしてゐます。

ほんやりしてゐるおじいさんの耳へ、それは／＼きれいな音樂が聞えて來ました。生れてからまだ一度だつてこんなきれいな音は聞いたことがない位、ヴァイオリンや、ピアノや、もつ／＼／＼素的な音のオーケストラ。その音は「へうたん」の中からきこえて來る様です。

びつくりして聞いてゐるおじいさんの、今度はお口の中が、すこ甘くなつて、おじい／＼果物を食べた時の様な、チョコレートやキャラメルをなめた時の様な氣持になりました。

おじいさんは、しばらくつづり下りしてゐましたが、され／＼おばあさんにも聞かせなくては、立ち上りました。

それから毎日、せいべえさんは、島から歸つて来る。『へうたん』の下りてる部屋で、そのきれいな音楽を聞くのが、何よりうれしいことでした。毎日、色々變つた唱歌やオーケストラが聞えます。森でさへする小鳥の聲も聞えれば、時には、お月様から兎のお餅をつく音まで聞えて來たりします。

近所に住んでゐる、なまけ者の重兵衛さんが、真先にこれを聞きつけて、やつて來たのです。けれど、どうしたこのか重兵衛さんにはちつとも聞こえません。勿論、お口の中が甘くも何ともなりません。

いゝ加減なことを云ふ、ミブン／＼怒つて歸つてしまひました。
間も無くこの出来ごとが、村中にきこえて大評判です。

浦兵衛さん（の「へうたんラヂオ」

町の時計屋でさくらラヂオよりもつゞ素的だ。

お口の中まで、おいしくなつて、

アンテナもないし、スピーカーもないのにお月様からの放送迄きこえるラヂオー。

村の人達は、みんな一生懸命仕事を済ます。

「今晚は。「へうたんラヂオ」を聞きに来ました」。こやつて来ます。

清兵衛さんは、あんまり面白くなりましたが、島へ行くのがいやになりました。それより一日家に居て聞いてるやう一

好いお天氣なのに、清兵衛さんは、お家の内で横になつてゐます。

さあ今日は何が聞えて来るかなー、

待つてゐても、待つてゐても、ちつとも聞こえて来ません。そつと、下げる「へうたん」にさはつて見ても、何の變りもありません。

晩になるご、いつもの様に村の人達がやつて來ました。「今日はきこえなし」、そうきくと皆は、がつかりして、つまらなささうに歸つて行きました。

「あゝ、ほっこりがたかつたからかな」次の日せじべえじしゃくは、一日かゝつて、へうたんの

ほこりを落しましたがやつぱり聞えません。

又、がつかりして歸つて行く人達、清兵衛さんは、もつと力を落しました。

翌日は、あきらめて畠へ行くことにしました。

ニコ／＼かゞやくお日様の下で、たつた一日來なかつた間に、すつかりきたなくなつてゐる畠。

おじいさんは、肥しをしたり、土を起したり、汗を出して働いて、夕方お家へ歸りました。その晩、「へうだんラヂオ」は、又きこえ出しました。畠からうつて來たお芋のおかげで、お夕飯を食べてゐるせいべえさんのお口の中が、とても／＼おいしくなつて……。

おじいさんは、大安心しました。

夕飯を済ますと直ぐに、一軒、一軒、「へうだんラヂオ」がなほりましたから聞きに来て下さい」。云ひながら廻つて歩きました、しかし重兵衛さんには、やつぱり聞こえませんでした。

あなたの机上へ

—保育一般の研究に—

		(書名)	(著者)	(發行所)	(價格)
託幼稚兒所園	保 媽	人 の 教 育	ハウ女史	警醒社	二・五〇
育 兒	用 教 育 學 法	フレーベル傳	岩村W.H.ブレーク著 後藤清四郎譯	玉川學園出版部	二・〇〇
		教育者としてのフレーベル研究	小川正行	警醒社	・七五
		フレーベルの生涯及び思想	茅野蕭々譯	目黒書店	二・八〇
		母子の遊戯	小川正雄	神戸頌榮幼稚園	三・〇〇
		母の歌と愛撫の歌	森川正雄	岩波書店	八・〇〇
		幼稚園の理論及實際	森川正雄	東洋圖書株式合資會社	二・八〇
		幼稚園の經營	森川正雄	三・〇〇	一・〇〇
			右 右		二・八〇

幼 稚 園 雜 草

幼稚園保育法真諦
幼稚園保育の諸問題
歐米の幼稚園及低學年教育の實際
幼兒教育の原理と其の方法
理想の幼稚園
幼稚園實際的保育學
幼稚園小學校保育要目
保育學校の實際研究
日本幼稚園史
幼稚園教育の實際
子供の遊ばせ方
實驗保育學
幼稚園
コロンビヤ大學附屬幼稚園及び低學年級の課程

倉 橋 懿 三
堀 七
堀 七
藏 藏 三
倉 橋 懿 三
苦 瓜 惠 三
馬 場 定 一
木 下 一 雄
青 木 誠 四 郎
日本幼稚園協會
新 倉 橋 よし 庄 三共著
永 泽 義 憲
坂 内 ミツ
和 田 實
大 阪 市 保 育 會 譯
帝 國 教 育 會 編 纂

東洋圖書株式合資會社
同 右
同 右
二・五〇
二・八〇
三・七〇
三・〇〇
一・五〇
一・八〇
一・五〇
二・五〇
二・五〇
二・五〇

兒童心理學文獻抄 六

牛 島 義 友

幼兒の感覺機能の發達

出生以前母體内に在る子供でも感覺刺戟を受け得る力があるであらうか、之に就いてバイバー (A. Peiper 1925) の面白い研究がある。分娩の前週にあたる母の前で、子供の頭部に近い處で自動車用警笛を鳴らして、其際の母の腹壁の運動をカイモグラフに記録した。そうするに母の腹壁に何か當つて、ゆり動いてのち靜まるやうな一種の運動が起つた。これが母自身の運動でないことは一度觸れてみたものには直ぐ分る。又其他音樂會に行くと腹の中の子供が動くので不愉快だといふして居る母親もある。又フォーブス (Forbes 1925) の報告による、分娩前一ヶ月位の妊娠が

入浴してゐるとき、風呂桶の側面を、速かにトントン叩いたところが、妊婦の腹壁が高まつた、妊婦自身は此時腹の中で何物かとびくりと動くのを感じた、又分娩五六日前に音楽を聞いてゐた處、喝采の起つた時に胎児が激しく動くのを味つたと云ふ事である。是等は胎児に聽覺が既に在るのか、或は最近發見された振動感覺に依るのであるかは問題であるが、兎に角胎児でも感覺的刺戟を受け入れる能力がある事は面白い事であらう。

さて次に、生れて間も無い嬰兒に於いてはものを見たり聞いたり味つたりする感覺機能が始まから吾々成人の様に整つて居る譯ではなく、種々な段階を経て發達して来るものである。

例へば見る、云ふ事は出来ない。吾々だら見たいと思ふ物に眼を直ぐ有意的に向ける事が出来るが、嬰兒ではそうは行かない。シン女史(Shinn : Notes on the development of a child Univ. California Publ. 1907)は此間に四つの段階をあげて居る。第一は無計劃な眼の浮動期で、眼を一點に注ぐ事は出来ない。第二は光る物を凝視する時期で何か光るものを子供の視野の真中に持つて行く今まで浮動して居た眼球がしばらく固定する様になる(一乃至五週間目)。併し未だ此時期では其光る物を動かしても眼がそれを追つて動く事は出来ない。第三は反射的注視期で、光る物を視野の邊の方で與へる、眼が反射的に其方に動いて注視する様になる。之は普通生後三週間から現れて来る。第四は成人と同じ有意的な注視で、ブライヤー(Preyer)の觀察による、「八十一日目に子供の傍でコップを叩いた處、子供は頭を直ぐ其方に向けた、併し巧くコップへ視線が合はなかつたので、探し廻つて居たが、見付かる、眼を固定させて視つめた」、そうである。久保良英氏の觀察(「幼児の生後一ヶ月間の行動 児童研究所紀要第十一卷」)では事物

を注視する點では最初二週間位は空間を注視してをり、十五日目に白い布を注視し、五十日目に示された金時計を、九十三日目に母や他人を見分け、百三十日には六尺位離れた處でも其人を注視する様になつた。又五十一日目に眼前二尺位の處で物を示しそれを動かす、それに従つて眼球を動かした。

以上は視覺に就いて述べたのであるが、他の感覺に於ても夫々發達段階がある。もう一つの例として味覺に就いての實驗を述べやう。

園原太郎氏(新生兒の心理學的研究 實驗心理學)

研究第一卷、第一二輯は嬰兒にゴム製乳豆を衝へさせてをき、嬰兒がそれを吸つて居る時に刺戟溶液を口中に入れ其影響を見た。先づサッカリン刺戟に就いてみると、此溶液をのませる、吸啜運動が促進され、壓榨強く、持續が長くなつて来る。次に嬰兒の甘さに就いての銳鈍をみると、初めは非常に濃い溶液でない感じないが、生後一週間位たつと成人と同じ位の敏感さになつて来る、次に苦い刺戟として鹽酸キニーネを用ひた處が、嬰兒は少しも滋味

をしたり吸ふのを止めたり、いらついて来る譯ではなく、積極的に一層強く吸つたりする事がある。而も溶液を濃くして成人では堪へ難い程苦くしても尙盛に吸つて居る。併し之は生後四五日位迄であつて、其後は日數の経つと共に消極的な反応をする様になる。

次に斯る感覺機能の發達を診斷する検査を説明して参考に供し度いと思ふ。之は前號に述べたビューラー、ヘッセル兩氏の検査から摘録したものである。

一ヶ月児

- 頬にふれた時に頭を廻はす
- 觸れたものをつかむ
- 泣いたりむづかつて居る時に、子供を抱いたり身體の位置を變化させてやれば静かになる。

四ヶ月児

- 音源を眼で探す

○ガラ～～を子供の見えない處で鳴らし、同時に他の方

- 向の處に赤い毛絲を示してをく、毛絲の方に眼を止めれば合格

三ヶ月児

- 音の鳴つて居る間、頭を動かして探す
- 遠ざかるものを凝視する
- 連れ歩かれた時に方々を見廻す
- 動くものを眼で追ふ(二ヶ月児より長い間追ふ事)

二ヶ月児

- 物の方に頭を向ける
- 鈴の音を聞く
- 四種の音刺戟を聞き分ける
- 光を凝視する
- 動く毛絲を凝視する
- 背後の方に動く事物を眼で追ふ
- 音の方に頭を向ける
- 物を見廻す
- 触れたものに進んでさはつてみる
- 物を見廻す
- 弱い光を見つめる
- 同じ様な時にガラ～～を鳴らすと静かになる
- 子供の上に身をかゞめ子供の視野を覆ふ様にし乍ら横へ動く、子供の眼が數秒間に従つて動けば合格
- 触れたものに進んでさはつてみる
- 物を見廻す

五ヶ月兒

○色の付いた板を無色の板より長く眺めてゐる
○物を摑み更に觀察する

六ヶ月兒

○物と其周圍とをあちこち交代に眺める

○団子ゴム人形と區別する

次にも少し複雑な知覺に就いて述べやう。元來目で物を知覺するには其物の形と色が重要な手がかりとなり、些小な形の相違、色の種類を區別する事が出來れば出来る程、ものゝ知覺が正確になつて来る。故に先づ基礎的な形や色に就いて辨別實驗をなす事が専ら行はれて居る。元來幼兒は言語が不完全であつて、例へば初の頃は色のあるものは皆「アカ」と云つて、青を黄も「アカ」と云ふ、併し之は青と赤の區別が出來ない譯ではなく、言語機能が未だ分化して居ない爲である。まして斯る發語さへ出來ない様な幼兒の知覺を驗べるには成人に對する様な方法では研究が出来ず、言葉を持たない動物に就いて研究するとの同一方法を用ひねばならない。今其方法を少し詳しく述べよう。

全然同じ大きさ、同じ形、同じ色の箱を二個作り一方の箱には丸い形の描かれたカードを貼り、他方の箱には四角の描かれたカードを貼つておく、而して丸の箱にはチヨコレートを入れてをき、他方へは何も入れてをかない。斯る二個の箱を幼兒の前に置き、子供に中の菓子を取らせる。但し箱の位置は毎回變へて或時は丸が右、他の時は左にしたり、或は右を數回續けたりする。初の中は子供はカードの事等は全く氣付かず、箱の蓋を開けて菓子を取らうとするが、段々やつて居る中に、菓子の入つて居るものと、はいつて居ないものとある事が判り、而もそれが、前のカードの形と關係がある事が氣付いて来る。此關係が判れば形を先づ見て其に應じて有效な箱のみを選ぶ様になる、斯る選擇が出來る様になれば、子供は形の區別が出來た事の間接の證明となる。尙此場合形以外のものが辨別の手がかりとならない様に種々工夫する必要がある。斯る遣方で色々な形なり色、或は大きさの辨別實驗をなす事が出来る。其結果として幼兒が如何なる程度の辨別力があるかこゝで一々説明するよりも餘暇のある母親方は自ら斯る方法で研究なさ

る方が遙かに興味ある事と思ふ。最近の研究による、一歳位の子供が類人猿の形の辨別力が大體同じ程度の様である。形の區別(例へば丸と四角)は何でもない様であるが中々困難なもので下級な哺乳動物、例へば白鼠等では以前は斯る形の區別は全然出來ないものだと言はれて居た位である。筆者も白鼠に初はカードに描いた形を區別させようとして努力したが失敗し、次にカードではなく實際に丸い球と、四角の立方體を作り、此兩者の區別をさせた處辛じて成功した。即ち彼等は具體的に形を具へたものならば區別する事が出来るが、それを平面的な圖形に表したものだらけが出來なくなる。(牛島義友 白鼠の形の辨別に就て 心理學論文集 第四輯) 斯る故に三角と四角形の區別等は動物とか一歳位の幼児に至つては非常に困難な事なのである。

其他子供の知覺を研究するには一寸した工夫で容易に試みる事が出来る、黒田亮氏(二歳児の距離知覺について 心理學研究第一卷)は食卓の周圍に十種宛の目盛を付け、子供の居る向側に菓子を置き、子供が食卓を廻つて菓子を

取りに行く時に近路をするか遠路をするかを觀察した、其結果四十種以上の差がある時は子供は必ず近距離の方を選んだ。又も一つの小食卓を側に置いて距離の測定を複雑にして種々研究されて居る。

以上の如く幼児の感覺機能は成人に比べて趣を異にするが、此感覺機能が更に高級な精神活動の基礎となるものであつて、幼児時代に此機能が完全に成育し、訓練されて居る事が大いに必要である。モンテッソーリー女史の幼児の教育法の一つは此感覺機能を訓練する事であつて、其爲に種の遊戯的な辨別用具が考案されてある。又低能者教育にも先づ正確なる感覺を持たせる事が最も大切であると言はれて居る。

懸賞童話の入選發表は本誌三十八頁に、新懸賞童話の募集については廣告の一頁に、それすぐござります故御覽下さいませ。
(編輯部)

第六回全國幼稚園關係者大會出席の所感

京都市保育會會員 大塚 喜一

全國の幼稚園關係者各位に期待せられたる第六回全國幼稚園關係者大會も盛會裡に修了して歸洛したる今（昭和十一年三月三日午後三時半）その出席の印象新なるを回顧しつこの文を記し始めたのである。

先づ、本會開催に至る迄の會務萬端の處理に公私共御繁多の中を日夜特に御盡力下されし主幹諸賢、御發表の先生方はもごより、内に隠れたる奉仕的努力に御心を用ひ下されし熱心なる各位等の御誠意の綜合により、今回の會合の意義、效果を十分ならしむる様夫々深甚なる御高配ニ萬遺漏なき御手配ニを爲されつゝありし事ニ感謝に耐えざる次第である。吾人も亦満天下の幼稚園關係者各位ニ俱に本大會に於ける幾多の尊き精神的財寶、單時間内に壓縮して發表せらるゝ一言一句を眞に血ニ涙ニの多年の御體驗の中よ

りにじみ出でたる生きた誠の言ニして感銘し體得し進んで今後の實踐に現はし得る様ニの決心を以て望んだ次第である。

大會は三月一日午前十時の定刻、かゝる會合ニしてまことにふさはしき國民會館に一千六百名の多數參會者の心を一にして開會された。會長挨拶として大阪市保育會長より本會延期の御断り並に風害見舞の謝辭を述べられたるに對しては未曾有の慟事に現はるゝ悲痛徹肅なる教育精神を崇敬しその艱難を克服して本大會開催迄に至られたる御苦心を思ひ感慨深きを覺えた。文部大臣の祝辭中に「敬神崇祖感恩奉謝の生活は源を幼兒期に發す各位胸襟を開き慎重凝議以て幼兒保育の精華を擧げむ事を」この主旨を述べられ

たるは特に吾人の心に銘したる所である。又、保育功勞者表彰式中に小生が幼時保育を受けた堺市片岡春子女史大上小鶴女史の列せらるゝを見て今日の小生の生活の出發點を回顧して保育上特に苦心せられし子であつたこに一層感恩の情を覺えつゝ祝意を表した次第である。

議事の一々に就ての所感を述ぶるはあまりに長くなるから、特に二題に止め、先づ

文部省諮詢問索「幼兒ノ情操陶冶ニ關シ保育上特ニ留意スベキ點如何」

に就ては、東京の高崎先生、神戸の望月先生、堺のセツ一ル先生の御發表を殊に貴重なる御體験ご拜聴した。この問題を見た最初から小生の念頭に浮んだ事は、保姆が先づ幼兒の純なる心直き心を受くることによりその性情資質が醇化せられ眞に幼兒らしい生くるにふさはしき情操陶冶が意識せず努めずして自然に行はるゝ素地が涵養さるゝことである。かゝる態度は保育全般に亘る根本原則であり今更言葉こしては云ふまでもなく専門家各位の熟知の事實であるが、さて實踐となるといつも心がけてゐなければな

らぬ態度であり、むしろ特に心がけずとも自然に幼兒から受けれる様になつてゐるのが眞に保姆たる資質であらうと思はれる。これに就ては實に適切なる事實に直接學び得たのでそれを述べやう。丁度本諮詢案に對する京都市よりの解答も案を練る事幾度、遂に京都帝大のI先生に御見せして御高見を伺ふべく數名の保姆諸彦が打合せて同先生の御宅を訪はれた時の事であつた。小生は其中の一人の保姆さん用があつて園へ伺つたが御不在であつたので出先を尋ねて途中からその集りに出たので、むづかしい發表辭句や概念上の討究はござれ程行はれたか全部は存じないが互に親しい間柄でいろいろ面白い隔意なき中にも眞面目なる座談に花が咲いた。その日の樂しき會合中永久に忘れ得ざる懐かしき思ひ出を残したのはI先生の御嬢様で満一歳八ヶ月ごかのお子さんご保姆さんの一人ごが、何か律動遊戲の様なことを、もごより定つた形でしてゐられるのでなく、自然に自由に融通無碍な遊びの中に俱に楽しんでゐられた情景であつた。形だけ見てゐるご同様な事を何回もく反復してゐられる様であるがごうしてノーオ實に子供さんご先

生の間にお互にひき合ひ交さるゝいこも朗らかなる笑

い和やかなる雰囲氣により、何回繰返しても興趣愈々盡きず淡淡たる真味は汲めば汲むほど益々清らかなる童心の生源から湧き出づとも云はむか實にさへまでつゞくかわからぬ程の「相忘爲樂」の至境を目のあたりに現出したのであつた。この眞景につりこまれて時を忘れてゐるお互がホツト我に歸つた時、その先生の曰く「あなたに情操陶冶をしてもらひました」と。何うれしいなつかしい實感のあふれた言でせう！

さつきのむづかしい議論はさてやら、……若しこの「相忘爲樂」の情景を大會の發表者が如實にこのまゝに表現し得ましたなら、やれ情緒の情操の等いふ文字や概念上の論議は超脱してしまつて「ハア、こゝだな」とみんなが期せずして膝を打つでせう。小生も最早これ以上述べる必要はあるまいと思ひますが、たゞこの和やかな情景に接して後、情緒と情操を新しい光の下に見直す様にさせられた事を一言附加しておきたい。

ペスタロッチーはその教育説の中心とも云ふべき「道徳

的宗教的陶冶」に就て次の如く述べてゐる。

「道徳的宗教的發達に三段ある。第一期はまだ善惡の彼岸にある時期で道徳的價値によつて行動する事がない。第二期は道徳法に従つて行動するがまだ快苦に支配される時で他律的である。第三期は善の爲に善を行ふ時で自律的である。

この三段階を人間の發達に當てはめるに大體子供・青年・大人の時代に當るが、しかし實生活に於てはこの三方面が錯綜混合してゐる。故に子供の生活の中にも最上の道徳生活へのひらめきがあるからこれを教育して行くこゝにより最高の發達を遂げしめる事が出来る。云々。」

大學の教育學で嘗て學んだ事を思ひ出しノートのその箇所を開けて改めて読みつゝ前述の情景を思ひ合せて見るに互に一脈相通するものあるを感じて興趣深きを覺ゆるのである。情緒と情操を發達の順序上より概括的に下等高等の感情と分けてしまへば、幼兒は未だ情緒生活的時期にあり情操の生活に入らしむるはあまりに早く故意に急ぐは却て自然の生長發育を助長するの害ありとも考へらるゝ様に

なり、かくては本諸問案も我等の保育の圈内に入り来る部分は極めて小にならざるを得ない。只將來の情操生活に入らしむる基本を涵養する云ふ以上に微細なる論議に入るは未分化渾一の幼兒の具體生活を餘りに概念的項目的に細分するの弊なし云はれぬ。故に、この稿に於ては、問題の字句と題意とに最も該當する解答としてでなく、その問題が幼兒の生ける具體生活を保育する上に如何なる關係を有するか、その問題に當面して吾人の天職の獨自の見地と信念と使命よりして如何なる方向態度に主力を注ぐべきかを述べやう。この事は次の「國民精神」に關する問題に就ても同様であつて、從て大會にて述べ盡されざりし點を補足するといふ意味では勿論無い。むしろ本大會の閉會の御挨拶中に「本大會の效果を今後の實行に現はす様靜かに力強き努力を望む」この主旨を述べられたるに副はむが爲の先生方の今後の御努力に幾分にても御役に立ち得ればこの微意よりこの稿を草する次第である。

さて「十の力を十だけ出す」と高崎先生が云はれた如き真剣剣我的生活や、母の懷に抱かれて乳を呑む嬰兒、稍々長じ

ては幼な心に動く興味や喜愛のすべてをありのまゝに全く丸任せに母に語り示し且求むる絕對信順の心境、更に肉體の死後にも永遠の生命ありと説教せる宗教家の言を臨終に際し思ひ出し語りつゝ安らかに大往生を遂げたる幼き魂の信仰の力に彼に説教せし宗教家自身もおのづから頭の下る敬虔な感銘を與へられた事實等々々、實に人間修徳の極致として何人も理想とする至境が幼兒の純なる心情と態度との裡に具現されてゐるではないか。かかる性情こそ情操陶冶の母胎であり基本である。既に「陶冶」なる文字が陶器冶金等の暗示する如く素材に内在する性を之に従へる操作により顯現せしむるの意である。生命を有する人間の素材たる幼兒に内在する良き性情は之を見出しその性に従つて保育する「直き心」により最も自然に開發せられる。これを感得する心情こそこれを保育する態度こそは、幼兒の情操陶冶に關して保育上特に留意すべき點である。而して保育者その人の持つ良き性情の感化多年の修養信仰の精華等もかかる心情と態度とを通路として自然に幼兒の心情の中に流れ入り浸み込むであらう。かくして子供と大人とが互にそ

の良き性情を受けつゝ與へ與へつゝ受くる間に、子供に
益々子供らしさが養はるゝと共に大人も亦眞純なる人間生
活に生き得るゝ實に子供のおかげであるこの感謝の念に
包囲せらるゝを覺ゆるであらう。吾人は「生活は陶冶する」
このペスタロッチーの名句を以てこの項を結びたいと思ふ。

名古屋市より提出の協議題「幼兒ニ國民精神ヲ涵養セシ
ムベキ適切ナル方法如何」を見て第一に胸を打つたのは小
生が小學校時代に受けた終生忘るゝ能はざる感銘である。
時これ明治四十五年七月三十日 畏くも

明治天皇陛下 崩御の一大悲報全國に傳はりし其の日の朝

の校庭のあの情景を小生はいつもまさしく想起するので
ある。僕等の級の先生は校庭の一隅にいつも具備してある
黒板に白墨の跡鮮かなる筆蹟を以て一字一字心をこめて

四十五年間 赤子としていつくしみ給ひし

大御心を忘るゝことなく

こ書いてゐられるのを、僕達は一重二重に輪になつて眺め
入つて小さき胸を嚴肅なる感慨にふるはせてゐた。丁度そ
の時登校せられた他の先生が僕達の先生の字を書いてゐら

れる所へ來て「君、えらいものを書いてるな」と云はれた。
呼ばれてハツミ我に歸つた如くふり向かれ「號外來た」とふ
るえ聲、先生の御眼は赤く涙が一ぱいたまつてゐた。この
印象こそ小國民としての吾人に皇恩に奉謝すべき生活の基
本を感じ得銘記せしめられたものであつた。其後の式の印象
はまことに相濟まぬ事ながら今日思ひ出す事は出來ぬが、
獨りこの言語に絶した感銘のみは、年々共に益々新しく思
ひ出し、教室にて生徒に語る度毎に愈々鮮に、吾人の臣民
としての生活を引きしめる最大最强の生ける力となつて働く
きつゝがあるのである。

この日は斯かる特別な日であつたからそれ程の感銘を受
けたのも當然の事であるとも思はれるが、しかし嚴肅なる
學校の行事としての式その訓辭等の印象の特に今日まで殘
るもの思ひ出し難きに比し、この一事のみ特に力強く心に
印せられたのは何故か。それは全く小生の恩師の誠の發露で
あつたからこそ云ふの外はない。誠は自然に發露する人間の
本心であり意識的計畫的なる訓話等とは趣を異にせる自然
の感化である。この日の學校長の訓話も勿論我等小國民に

さつて有難いものであつたであらうが、たゞ「式」らしいふ形の下に行はれた爲に児童も意識的に受け入れ、努めて忠義を盡さうとは思ふたが、自然にさうならずには居られない感じにまではなつて來なかつたのであらう。

國民精神涵養に關し祝祭日の行事や

御眞影奉拜、國旗掲揚等々大會に於て述べられたる方法何れも結構な事もござりであるが、それだけでよいと思ふのは誤である。ましてその行事を爲すことに保育者の心が偏して大切な自然の感化に就て、更に切言すれば保育者その人の皇恩に生きる日々の生活に一點一毫の油斷でもあつたら、却て精神なき空虚なる形式の反復に止りかかる實無き形が本來内質を主とする幼兒の生活を性情ごとに却てその根本に於て恐懼に耐えざる態度を感染するもの誰か無しき云ひ得るものぞ！

西音一郎先生は昭和十年一月四日大阪毎日新聞第五面に於て「我國柄の精髄」を題し純一無雜な君臣の合一に就て明確に徹底的に御高見を開陳してゐられる。其中にて特に今學びたきは

「清明心は素直な心で、あらゆるものとそのあるまゝにスナホに受け取る心である。己を虚しくせりこも思はず、おのづから己れを虚しくしてゐる様子がある。……たゞしあるまゝを受入れるから、外來の珍らしき文化も心易く受け入れて、強ひてこれを拒むべき己れごいふものを固執しない。吾々ほゞ外來文化を探れる民族は比類があるまい。しかし丸きり己が空ではない。他を受入れる素直な心はやがて素直ならぬ掠へ事、人爲にわたる事の多いものを簡易化して、己れが天性に合ふやうにする」を述べられたる點である。教育勅語の「斯道」が「之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス」の融通無碍なる包擁力と適合性を有する所以を、頭で理知的に理解し、説明し得てゐるのみならず、自ら省みて日々の實踐の中に體験的に感得してゐる事、即ち「斯道」を今後も永久に拳々服膺して行きさへすれば何時如何なる處に於ても立派に正道を歩んで行けるとの信念に立脚してゐねばならぬと深く深く思はせられるのである。この實踐が出來てゐてこそ我が日本の第一の國民即ち彌々榮え行く来るべき時代の臣民

をその幼芽の中に保育し以て「朕爾臣民ト俱ニ」^ミ親しく呼びかけられたる大御心に副ひ奉る事が出来るのである。斯く考へ来る時、西先生の上述の教が實に有難く懷しく感ぜられる。先生は更に、東西兩思想の合致和合せる大乘的日本の清明心の絶對性を認め、おのづから己を沒して行く我が大和心の優越性を擧示されてゐる。我等と共に先生著「倫理學の根本問題」「東洋倫理」について先生獨自の人倫の道事物の見方之に處する態度の根本を學び、更に寛博士御進講の書「神ながらの道」について行知合一の實修を通じて臣民としての徳を積みたいものである。(是等の書物は何れも岩波書店の發行である)。

終にこの二題の合流する根本とも云ふべき最も重要ななる保育の淵源を述べてこの稿を結びたいと思ふ。大會第一日の發表者中、高崎先生は情操陶冶に就て先づ人格的感化を高唱せられ、精神分析學者は忠義孝行等を幼兒時代に教へてはならぬ^ミ主張してゐる。母や保姆が自ら祈り自らの父母を敬ふその生活が自然に幼兒の情操を陶冶して行くのであつて、先づ我々が情操豊かな生活をせねばならぬ^ミと述

べられたるは、往々陥り易き形式に偏する弊を一言にて打破せらるゝ^ミ共に我等の態度の根本を教へられた^ミ敬服する次第、流石に發表者中特に人格の光燐^{さん}たるものを感じた。而して國民精神の涵養も實に自然に獻身犠牲の行がいたくなる様な情念がその人の性質として事に當る毎に湧き出でて來ることこそ最も望ましいのであり、後天的な假知や利害損得の打算等の到底及ぶ能はざる人格の低流にかかる情念が動いてゐてこそ、如何なる美事善行を爲すも本人自身の主觀に於ては常に謙虛な心に住し一點の誇らしい氣持も混せず感恩奉謝の生活の中に常に自ら足らざる事を恐懼してゐる高潔なる人^ミなり得るのである。而して斯かる性情はその基本を幼時期に涵養しおくことによりてこそ甫めてその人の生涯を通じて彌々高めゆくはたらきを可能ならしむる根本の方向と態度^ミを定め得るものなるに思ひ到らば、幼兒教育者としての吾人がその獨特の任務に己を捧げ召命を受けて 皇運を扶翼し奉る所以の道も亦實に茲に存するを悟るのである。(皇紀一千五百九十五年彌生四日

午後四時京都岡崎の私宅にて擷筆)

芝に就て

大 岩 金

一、芝附けの時期

芝附けの時期は三月下旬から六月迄及び九、十月頃まで居りますがその中でもこの四月は最も適當な時期であります。即ち早すぎました場合には未だ寒さの爲に發育がよくなく、又晩く六月頃にもなりまして雨期に入ります。植附けしました後の濕氣の爲には都合がよろしいけれども芝附け致します迄に束ねてある相互の芝がやゝもすればそれで黴を生じ枯れるやうな事もあります。又

秋期におきましてあまりおくれます時は未だ根の充分に活着しない中に霜柱など立つやうになりますので斜面などでありますれば崩れ落ちる事もあり平地にありますもの爲に根が浮き上りまして枯死する場合もあります。やむなくかかる時期に芝附け致しましたものにはその冬には蘿又は蓮の類を覆つて凍結を防がなければなりません。

二、芝の種類

大別しますれば日本芝と西洋芝との二通りでありますが一般に使用されて居りますのは日本芝であります。

更にこの日本芝を草葉の粗密、質の強弱等に依りまして野芝、中芝、高麗芝の三種類に分けて居ります。

野芝は葉が廣く、粗剛でありますが質は丈夫であります。それ故に運動場等の如く使用の頻繁な廣い場所に用ひられます。

之に反して高麗芝は葉が細く弱々しいのであります。外觀は最も美しく從つて家庭用としての小面積の場所や觀賞を主としたあまり踏み入らないやうな場所に多く使用されて居ります。

中芝は兩者の中間にあるものであります。然るものでありまして人により中芝と高麗芝とは同一に扱つて居る場合もあります。

三、芝の附け方

張り附け法と播き附け法との二方法があります。

普通に行はれて居りますのは前者の張り附け法であります。

張り附けに用ひます芝は大抵長さ三十糢、幅十五糢位の大きさの長方形に切つたものか四十枚重ねて一束にして芝一坪といつて居ります。けれども是は實面積の一坪よりは稍々少ないのであります。が是を張り附けます時に各々の間を少しづゝ明けますので丁度一坪位に張り附けられるのであります。

その張り方は先づ二月號で申しましたやうに第一に地拵へをする事であります。

次に用意出来ました所に切芝を並べるのであります。その並べ方には種々あります。即ち縁取用の如く幅の狭い

時、又は芝生の如く廣い場所に張る場合もあり、或は芝を節約する場合等に依りまして異なるのであります。がいづれに致しましても芝相互の間は接近させないでその間に隙間を爲さるのであります。之は新しい根の繁茂を容易にさせる

であります。廣さは三糢内外を適度として居ります。あまりに廣い時は又はが接近する迄に長時間要する事になります。この間隙を目地と呼んで居ります。植木屋の申しますにはこの目地を整然とつてゆくにはかなりの手數を要するので多少芝は多く要しても目地をこらないで並べた方が工賃に於てずつと經濟につく事であります。が芝の爲を考へますならばこの目地はこつておく方がよいのであります。尙一枚一枚も縦横に多少引張り加減にして並べるのであります(圖を参照)。

そして長い方の兩端は長さ十四、五糢の竹串でこめておきます。時にはこの竹串は省く事もありますが傾斜地にあります。この場合は必ずしておきませんと崩れ落ちる心配があります。この串は筐を利用して節の所を上にするやうに用ひればよいのであります。

次に目地といつて目地及び張芝の上に厚さ一糢位に土を篩にかけながら平にかけてゆくのであります。

更にこの上を板又は軽いローラーでからくおさへその上に充分の灌水を致します。

このやうにしましたものは一週間もたちますれば根付きますので短時日で観賞する事が出来ます。

次に播き附け法といひますのは絡み合つた芝を全部はぐしまして長さ六、七釐に切り、芝一坪分を實面積三坪位の廣さに播きちらすのであります。そしてこの場合の目土は前よりも厚く三釐内外にしておきます。その他の管理は前同様でよろしいのでありますけれども観賞する迄には前方法に依りましたものよりも長時日を要するのであります。

以上申しましたのは芝附け法の極普通の仕方でありますて或地方におきましては切つた芝と赤土を混合して張り付ける所もある事が聞いて居ります。

四、芝附け後の管理

1、除草

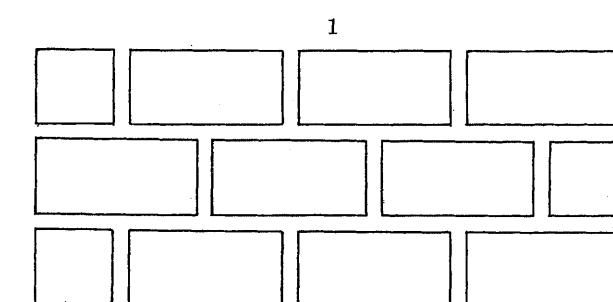
芝を常に奇麗に保ちますには絶えず除草を行はねばなりません。

張り附け、播き附けの前に充分除草して残株、残根のないやうにしておきます事は勿論でありますけれどもその後におきましても、常に注意して見付け次第根から取り除か

なければなりません。手で抜け易いものは手で抜き、宿根性のものでありますて容易に抜き難いやうなものならばナイフか、鎌のやうなものを使用するのであります。

2、刈込

除草ご相並んで大切なのは刈込みであります。



芝は常に短かく刈込みまして、地下莖によく空氣を送り根を浮き上らせないやうに茎葉のしまつたものに育て上げる事が肝要であります。それには五月から九月頃までの生育期間には出来ますれば月一回の刈込みを行ふごよいのであります。九月以後になりますて伸びるにつれて時を見て刈込めばよろしく二、三ヶ月に一回位の割合でありますが少な

くも年四、五回は刈込みたいものであります。

尚芝は勢力の旺盛なものでありますから、年を経るごとに段々ご地下茎が方々に漫延して縁取りにしたものなさは

その花壇の内外にはみ出しまして形を亂しますから春秋二回は刈込み同時に蔓切を行ひまして形の亂れぬやうその餘分の地下茎を切り取る事をも忘つてはなりません。

刈込み用具としては小面積ならば鎌を用ひ、廣面積の場合にはロ

ーンモアーを使用致します。そし

て芝が水分を帶びてゐる時は刈込みが容易でありますから、朝露のある時、又は雨後の濕りのあります時に刈るのが最もよいこのごとあります。蔓切りは鎌を用ひる事もありますが大抵は鎌で出来るのであります。

3、肥料

芝はか弱い草花のやうに度々施肥する必要もありませんが年一、二回はやるのであります。そのうちでも芝附けしました最初の早春には新芽の出るのに先だつて用意しておきまして肥料（即ち油粕、魚肥等を土壤中に混合して堆積しておいたもの）を目土として二榧位の厚さに萬遍なく篩ひかけるのであります。かやうに致しましても尚芝の葉色が綠濃くならないで勢が思はしくないやうでしたら時に應じて液肥をかけるのであります。液肥として用ひますものは油粕の上澄み液、又は下肥のいづれでもよいのでありますが家庭用として春以後の芝使用時期にありますては殘渣を止めて

使用出来かねますから代りて智利硝石を使用するのが便利であります。

是は又芝より弱い雑草を枯死させる働きをもつて居りますので除草をも兼ねる事になります。

水に極めて溶け易く着色する事も、悪臭もなく、使用時に臨んで適當量を水中に入れ數回攪拌さへすればよいのであります。適當量を申しますのは水一斗に對して智利硝石三十匁の割合に溶かしたものを普通使用して居ります。

使用上の注意としては如露でくまなくかける事、むらにかけます。施肥した部分丈が葉色がよくなり芝の縁に不同が出來て見にくいものであります。又化學肥料は一般に作用が激烈ですから濃すぎないやうに稀める事であります。

花壇の植込みに就て

本月に入りますればよいよ花壇の植込みに忙しくなります。

秋植込みました球根類を觀賞するかたはらフレーム内で

育生しましたマーガレット、シネラリヤなぎの満開になつたものを豫定の場所に下さなければなりません、露地植のバンジー、ストック、バージニアストック、デージー、金盞花、鉢植にしておいたルーピナスなぎも夫々花壇草を

して用ひられるのであります。

又春植の球根類も夫々芽分け、株分けを行ひまして植込みしなければなりません。

苗床には秋花壇を賑はす爲の種子も播きつけなければなりません。

(七八頁より)

ピツタリくつついてしまひました。

鯨の口から飛び出した船乗りはそのまま、お母さんの家へ歸つて、お嫁さんをもらつて其後樂しく暮しました。

鯨もまたそうでした。たゞその時以來といふものは、あの船乗りの残して行つた格子がさうにも喉につかへて、咳をして吐き出しことも出来なければ、一呑みに呑み下してしまふこゝも出来ないのでです。で今でもこの格子が大へんな邪魔になつて、鯨はある大きな體でごくく小さいお魚の外は何にも食べられなくなつてしまつて、だから鯨はあなたの方、可愛い坊ちゃん嬢ちゃんを決して三つて食べたござしなくなつたといふお話をトサ。(おはり)

童話 何故さう物語(二)

—ラットヤッド・キプリング—

中野好夫譯

一、何故駱駝の背中にたん瘤が出来たかといふお話

ありました。『フン…』『フン…』一言、ほんとにたゞそれだけなります。

サア、皆さん、今度はあの駱駝——皆さん、駱駝は知つてゐますね、さうです、無論、知つてゐますごも。——あの駱駝のお背中に何故、たん瘤が出来たか、といふお話です。まだこの世界が出来たてのそれはそれはホヤホヤの時分、そしていろんな獣達がやつと私達人間の御用をして、役に立ちはじめた頃のお話です。一匹の駱駝が住んで居りました。駱駝は淋しい淋しい沙漠の真中に住んで居りました。木の根つゝや草の葉つばや、茨の刺なきを食べてゐて、それはそれはとても怠け者であります。若し誰れかが話しかけても、たゞ鼻の先で『フン…』の一言答へるばかりで

月曜日の朝でした。一匹の馬がヒヨッククリ駱駝のところへやつて参りました。馬は背中に鞍を背負ひ、口には轡をはめて居りました。馬が申しました。『モシ、モシ、駱駝さん、サア、私達のやうに驅けまはらうぢやありませんか。』『フン…』駱駝は答へました。で仕方なしに馬は歸つて来て、このことを人間に申しました。

まもなく一本の木片れを口に銜へた犬がやつて参りました。犬は申しました。『モシモシ、駱駝さん、サアサア、私達のやうに荷物運びでもしようぢやありませんか。』『フン…』駱駝は申しました。そこで犬は仕方なく歸つて

て、このこを人間に申しました。

間もなく今度は、首に大きな輪^{くわい}をつけた牛がやつて参りました。牛は申しました。『モシ、モシ、駱駝さん。サアサア、私達のやうに畑でも耕しては如何ですか』。

『フン！』駱駝は申しました。そこで牛は仕方なく歸つて、このこを人間に申しました。

ある日の夕方、人間は馬^ま犬^{けん}牛^{うし}を呼び集めました。そして申しました。『あゝ、皆の者、ほんとに御苦勞ぢやつた。何しろ世界中がこの通り出来たのホヤホヤぢやからな。ところが、あの沙漠にあるフン先生ぢやよ。奴めは全く仕事をしない、でなけれや、もう三つに此處へやつて來てる筈ぢや。で俺は、あんな奴はうつちやつて置かうと思ふのぢやが、その代りに、お氣の毒ぢやが、お前達は二倍方働いてくれん』。

サア、三四の者はカンカンになつて腹を立てました。そこでいよいよ荒野で會議を開くこになりました。丁度折よくその評定がはじまつた時刻に、例の駱駝のフン先生もいつものやうに草の葉つばをムシャムシャやりながら通り

かゝつたのであります。三四の姿を見るこ、又しても『フン!!』こ一言言つたまゝゲラゲラ笑ひながら行つてしまひました。

それからまもなく、沙漠の遙か向ふに高い高い土煙りが上つた。思ふこ、この沙漠を支配してゐる魔法使ひが土煙りの雲に乗つてまつしぐらに飛んで参りました。(魔法使ひはいつもこうして旅をするのです、無論そこが魔法なのです)魔法使ひは雲から降りる三四の者と一緒になつて、いよいよ評定がはじまりました。

『沙漠の王様に申上げます。こ馬が申しました。世界はまだこんな出来立てのホヤホヤでありますのに、誰れにもせよ、一體怠けて居てもよろしいので御座いますか』。

『無論、よろしくない』。魔法使ひは申しました。

『クレ』ろが王様馬は申しました。『この沙漠の眞中に不届な奴が一匹居るので御座います。(無論奴めもやつぱり)この沙漠生え抜きの者なので御座いますが)。長い首をして、長い足を持つてゐるくせに、月曜の朝つぱらから何一つ動かないものやうに草の葉つばをムシャムシャやりながら通りうこもしないので御座います。なにしろ、駆けつゝ一つし

ないんで御座います。』

『なるほし。魔法使ひは吐息をついて申しました。『彼奴はたしかに俺の駱駝ぢやよ。』『いふで、彼奴は何ご申して居るのぢや。』

『フン…!』吐すんで御座います。』犬が申しました。『それでゐて、物一つ持ち運ばうともしないので御座います

よ。』



駱駝の背の瘤のサシ画

『で何か外には申して居らぬかな。』

『それが、王様、たゞ一言。フン…それだけなんで御座りますよ、それで畑一つ耕すこさへしないで…。』

『よろしい。魔法使ひは申しました。『まあ暫らく待つて居てもらひたい。彼奴め、俺が一つうんこひびく目にあせてやるからな。』

そこで魔法使ひはまたしても土煙りの雲を捲き起して、

眞一文字に沙漠を横切つて参りました。するこ果して、ハン先生が沙漠の水たまりに映る自分の姿にニヤニヤ見惚れながら、ノラクラしてゐるではありますか。

『コラコラ、このブツブツ屋。』魔法使ひは申しました。『貴様は一向仕事をしないといふ噂を耳にするが、これや一體どうしたこゝのぢや。世界はこの通りまだ出来立てのホヤホヤぢやございふこそが貴様の目には見えぬのか。』

『フン!!』駱駝は申しました。

『コリヤ、やい。俺が貴様ぢやつたら、一度こそ

んな返答はせんぞ』。魔法使ひは申しました。『いやか、今一度言つてみろ。俺は貴様に仕事をしろといふのぢや』。

それでも駱駝はまたしても、『フン!!』と申しました。が今度はその『フン』が口から出るが早いが、あの駱駝が常々自慢にしてゐた大事の背中が、だん／＼さぶくらんで来て、見る見るうちに大きな大きな、ほんとうに不恰好な瘤が出来てしまひました。

『どうだ思ひ知つたか』。と魔法使ひは申しました。『自業自得の、ハ、ン瘤ぢや、解つたか。貴様が仕事をしない、それで自から招いた天罰のハ、ン瘤といふものぢや。今日は木曜日ぢや、いゝか。仕事の始まつたのは月曜日、それ以來貴様は何一つ仕事をして居らん。サア、解つたら働け』。

『背中に、こんな、ハ、ン瘤なんて背負つて、仕事が出来るもんですか』。駱駝は申しました。

『それには、わけがあるのぢや』。魔法使ひは申しました。

『貴様は、この三日間さゝるものをすつかり無駄にしてしまつた。だからこの後貴様は何一つ食べなくとも三日間は動けるやうにしてやつたのぢや。貴様はその、ハ、ン瘤を食つて

生きてゆける。さうだ解つたか。これで俺が貴様に何にもしてやらなかつた、なまこは言はせないぞ。サツサミ沙漠から出て、あの三匹の者のところへ行け。温和しくするのだぞ、そして、ハ、ン、と働け』。

そこで駱駝は、ハ、ン瘤もなにも背負つたまゝ、フンミ一つハ、ン張つて、やがて三匹のところへやつて参りました。ういつた譯で、その時以來駱駝は背中にあの、ハ、ン瘤を今まで背負つて居るのであります。(尤も今では、タ、ン瘤と言つて、ハ、ン瘤とは申しませんネ。それは駱駝がこの時のことを思ひ出して、氣持悪く思はないやうにいふのです)。でも駱駝はあの世界の始まりに無駄にした三日間の償いが、まだ今でも出来ないのだそうです。そして未だにお行儀よくすることを知らないのですトサ。

(おはり)

三、何故鯨に喉が出来たかといふお話

昔、昔、大昔、海の中に大きな大きな鯨が一匹ありました。鯨の御馳走は海のお魚です。だから鯨はヒトデやらヒラメやら、カレイやらカツオやら、カニやらカマスやら、サバやらサンマやら、それにあのヌラヌラする鰻までさつて食

べました。魚といふ魚は見つけ次第に食べてしまつたのです——で、到頭おしまひには廣い海中に小さな魚がたつた一匹だけ生残りました。がこれがこてすばしつこい魚で、いつも鯨の右の耳の直ぐ後にくつづいて游いで居るのですから、食べられる心配はありません。『あゝお腹が空いた!!』到頭ある日鯨はニューーと尻尾で立上つて申しました。

するご例のすばしつこい奴が、『モシ、モシ、大王様、あなた様は人間といふ奴を召上つたことが御座いますか』

『イヤ、未だない』と鯨は答へました。『ざんな物だ一體』。

『すばらしい御馳走で御座いますよ、尤も少々アツアツ致しますやうですが』。

『では、少し持つて参れ』。鯨はそう言つて大きな尻尾で海の水をグイと一搔き致しました。

『へい、へい、一度に一匹でもう澤山で御座います』。

『すばしつこい小魚は申しました。北緯五十度、それに西經四十度のところへいらつしやいます、今一度一人の舟乗が難船致しまして、筏に乗つて浮いて居ります、空色のズボン吊りをして、(皆さん、このズボン吊りを忘れないで

下さい。よろしいか)。ジャック、ナイフを一つ持つて居るきりで御座います。だが念の爲に申上げておきますが、こいつは恐ろしく智慧袋の大きい奴で御座いますから、御用心なさいませ』。

『サア、それから鯨の游いだごと、游いだごと。やがて北緯五十度、西經四十度のところへ来てみるごと、果して海の真中に空色のズボン吊りをして、(皆さん、このズボン吊りですよ、覚えてるて下さい)。ナイフを持つた船乗りがたつた一人、筏につかまつて流れてるるではありませんか』。

鯨は尻尾まで割れさうな大きな口をパクリと開いて、船乗りも、船乗りのつかまつてゐた筏も、それからズボン吊り(忘れてはいけませんよ)。も、ナイフも残らず一呑みに呑んでしまひました。そして眞暗な温いお腹の中の戸棚の中にチヤンと藏ひこんでしまひました。それから、さも美味しさうに舌鼓を打つて、クルリ、クルリ、クルリと尻尾で立つて三何んお廻りを致しました。

『ところが船乗り——、恐ろしく智慧袋の大きな船乗りでしたね——この船乗りは鯨のお腹の眞暗い温い戸棚の中に

入れられたことがわかる。俄にドタンバタン、ドシンズ
シン、ガタンビシャン、ビヨンピヨン、ドンドン、いやも
う、踊る、はねる、叩く、蹴る、喰鳴る、わめく、足踏み
する、飛上る、それはそれは大變な騒ぎでした。鯨はすつ
かりお腹の氣持が悪くなつてしまひました。

そこで鯨は泣きそうになつてはしつこいお魚に申しまし
た。『この人間といふ奴は恐ろしくゴツゴツした御馳走だ
な。それに吃逆^{じょくそく}が出さうで仕方がない。コレコレきうした
ものだ』。

『では、いつを出ろ^ミ仰言^ミませ。』とはしつこい小魚は
答へました。

そこで鯨は自分の喉の奥へ聲をかけました。『ヤイ、出て
失せろ。温和しくしないか。吃逆^{じょくそく}が出る』。

『ウンヤ、出るものか』。船乗りは申しました。『そんなら
俺を故郷の英國の海岸へ連れて行つてくれ、すればお前の
言ひ分だつてきいてやらんでもないが』。そして船乗りは益
益猛烈に躍り出しました。

『連れて歸つておやりになつた方が宜しう御座^ミいませ

う』。今はしつこい小魚が鯨に申しました。『たにかく恐ろし
く智慧袋の大きい男だといふことを申上げて置くと宣敷^{マツフ}
御座いましたが』。

『サア、そこでまた鯨の游いだ^{ハシミ}、游いだ^{ハシミ}。吃逆を
しいしい、二つの鳍^{ハラハラ}と尻尾^{ヒツテ}で根かぎり水をかき分けまし
た。そして到頭船乗りの故郷の英國の海岸までやつて參り
ました。鯨は出來るだけ海岸へ泳ぎ上つて、パクリと口を開ける^ハ、大聲で……『英國海岸——ロンドン行きの方はお
乗換^{モード}へを願ひます——』と申しました。で船乗りは鯨が丁
度、ロンドン……と大きく喉を開けた隙に大手を振つて出
てしまひました。ところが、この船乗りは恐ろしく智慧袋の
大きな男でした。この男は鯨が一生懸命に游いでゐる
間に、ナイフを出してあの自分の乗つてゐた筏を割いて、小
さな四角の格子にこしらへました。そして空色のズボン吊
りでガツシリ結びつける^ハ（サア、皆さん、何故ズボン吊
りを忘れていけなかつたか、これで御解りですネ）。グイ^ミ
鯨の喉に押しこみました。そしてそのまま格子は鯨の喉に

使用出来かねますから代りて智利硝石を使用するのが便利であります。

是は又芝より弱い雑草を枯死させる働きをもつて居りますので除草をも兼ねる事になります。

水に極めて溶け易く着色する事も、悪臭もなく、使用時に臨んで適當量を水中に入れ數回攪拌さへすればよいのであります。適當量を申しますのは水一斗に對して智利硝石三十匁の割合に溶かしたものを普通使用して居ります。

使用上の注意としては如露でくまなくかける事、むらにかけます。施肥した部分丈が葉色がよくなり芝の縁に不同が出來て見にくいものであります。又化學肥料は一般に作用が激烈ですから濃すぎないやうに稀める事であります。

花壇の植込みに就て

本月に入りますればよいよ花壇の植込みに忙しくなります。

秋植込みました球根類を觀賞するかたはらフレーム内で

育生しましたマーガレット、シネラリヤなぎの満開になつたものを豫定の場所に下さなければ、露地植の

バンジー、ストック、バージニアストック、デージー、金糸花、鉢植にしておいたルーピナスなぎも夫々花壇草を

して用ひられるのであります。

又春植の球根類も夫々芽分け、株分けを行ひまして植込みしなければなりません。

苗床には秋花壇を賑はす爲の種子も播きつけなければなりません。

(七八頁より)

ピツタリくつついでしまひました。

鯨の口から飛び出した船乗りはそのまま、お母さんの家へ歸つて、お嫁さんをもらつて其後樂しく暮しました。

鯨もまたそうでした。たゞその時以來といふものは、あの船乗りの残して行つた格子がさうにも喉につかへて、咳をして吐き出しことも出来なければ、一呑みに呑み下してしまふこゝも出来ないのでです。で今でもこの格子が大へんな邪魔になつて、鯨はある大きな體でごくく小さいお魚の外は何にも食べられなくなつてしまつて、だから鯨はあなたの方、可愛い坊ちゃん嬢ちゃんを決して三つて食べたなぎしなくなつたといふお話をトサ。(おはり)

童謡募集集

新學年を迎へて皆様一段とお忙しい中にも希望に燃えてお過しの事を存じます。

先頃懸賞募集致しました幼児童話は別項の様に皆様の御努力によりよい成績をあげ得まして本會ご致しましても大變欣んで居ります次第でござります。それに力を得まして今回は幼児のうたの歌詞を募集致します事になりました。

私共が幼児に唱はせ、また共に唱ひ度いと思ふ「うた」を、御一緒につくらうではございませんか、

どうぞこの趣旨に御賛成下さいまして多數の方が多數お寄せ下さいます様おすゝめ申しあげます。

昭和十年四月

日本幼稚園協会

募集規定

一、應募作は幼児にうたはせるに適するもので、主題及長さ等は隨意、但し必ず創作のこと

二、應募篇數任意

三、原稿用紙にベン書のこと、(原稿は一切返却せず)

四、應募者は宿所氏名(誌上匿名隨意)奉職園(校)名明記のこと。

五、宛名 日本幼稚園協会童謡研究部

六、締切 昭和十年六月十五日

七、選考 本協會童謡研究部委員

八、入選作若干は専門家に依頼して作曲の上本誌に掲載し、帶留或はピンを賞品として贈呈致します。

尚御不明の點は往復はがきにて本協會にお問合せ下さい。

日本幼稚園協会編輯 幼児の教育

會長

東京女子高等師範學校長

吉岡郷甫

主幹

東京女子高等師範學校教授
附屬幼稚園主任事務

倉橋惣三

日本幼稚園協會規則

第一條

本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ酵出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一同總會ヲ開ク。

但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ講習
一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク	一、雜誌發行(毎月一回)	會ノ開催
會長 一名	一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行	
主幹 一名	一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介	
幹事 若干名	一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件	
評議員 若干名	二、會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス	
第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス	三、會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス	
第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推薦スルモノトス	四、重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス	
第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘン	五、御送金の場合はなるべく振替口座	
第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス	六、東京一七二六番日本幼稚園協會元に願ひます。	

價定		一ヶ月分	半ヶ月分	冊送	金參拾五錢
外國行郵稅は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい	(昭和十年四月十三日印刷納本)	一ヶ年	半ヶ年	冊送	金參拾五錢
昭和十年四月十五日發行	貳年	一ヶ年	半ヶ年	冊送	金參拾五錢
東京女子高等師範學校附屬幼稚園	東京市小石川區大塚町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	倉橋惣三	神田區駿河臺ノ三品田
發行者	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	常	廣告社に御申込下さい
印 刷 所	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	杏林舍	御断
印 刷 者	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	柴山則常	一等面一頁
印 刷 日	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	三	一頁以下
發 行 所	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	本幼稚園協會	特等面一頁
振替口座東京一七二六番	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	第四號	二等面一頁
告 告	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	第三十五卷	金參拾五錢
廣 廣	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	東京市本鄉區駒込林町百七十二番地	第四號	金參拾五錢

定規文注

一、本誌御注文の方は凡て前金郵稅共で願ひます。(郵券代用の場合には總て割増)

一、御送金の場合はなるべく振替口座

一、送金の節には第何卷第何月號より第何月號迄

一、と明記せられたし。

一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出ししません。特に御入用の方は往復はがきで御申出を願ひます。

一、本誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますか。其の節は早速御送金を願ひます。

一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

【著 大 四 の 園 幼 稚】

[版六]

[版八]

[版五]

[版六十] 增訂

幼兒見習所園育兒法

奈良女高師教授兼附屬幼稚園主事 森川正雄先生著

定價二圓八十錢 送料十四錢

保育用語教育學

奈良女高師教授兼附屬幼稚園主事 森川正雄先生著

定價二圓八十錢 送料十八錢

幼稚園の經營

奈良女高師教授兼附屬幼稚園主事 森川正雄先生著

定價二圓八十錢 送料十八錢

幼稚園の理論及實際

奈良女高師教授兼附屬幼稚園主事 森川正雄先生著

定價十三八錢

▲唯一生は邦文参考書は古今の理論内外の實際等諸問題を網羅した無二良書。
 ▲邦文参考書は本邦保育界の著作宿森川先
 生の力作にて理論實際精述の如也。
 ▲實際的保育方法を詳解する。参考書は古
 今幼稚園の保育原論實際精述の如也。
 ▲保育要目を訓練する。参考書は内容各
 領域に亘る。参考書は各地各府縣指定參
 考書は各科書は各科書は各科書は各科書
 は各科書は各科書は各科書は各科書は各科
 書は各科書は各科書は各科書は各科書は各
 科書は各科書は各科書は各科書は各科書
 是が如也。参考書は各科書は各科書は各
 科書は各科書は各科書は各科書は各科書
 是が如也。

東洋圖書株式合資會社發兌

京阪	東大
神田・東京	新宿・神田
市區北・東京	市區南・神田
町丁一丁二	町丁一丁二
番地八七	番地八七
番地八六	番地八六
番地八五	番地八五
番地八三〇	番地八三〇
京阪	東大



今！御園の御設備に絶好の時期!!

新豫算のもとに、「あれも一臺備へたい」この思想が御座いませば、兎も角も弊館へ御相談下さいませ。

工手間も設備費も、割安にして能率的。従つて御施設は最も經濟的。幼児の運動具・保育用品を研究し、製造し、販賣すること茲に二十有七年、堅牢にして行届いた工作は、フレーベル館の云々、内外の幼稚園のゼネラル・オピニヤンになつてゐます。

- ◇波動廻轉塔 Ocean Waves.....
- ◇メリーゴーラウンド.....
- ◇鐵製椅子ブランコ.....
- ◇太鼓梯子.....
- ◇スモール・セット.....
- ◇大型二十人乗シーソー.....
- ◇箱積木.....
- ◇ヒル氏積木.....
- ◇コンビネーション運動具.....
- ◇桟登り.....
- ◇鐵製二人乗ブランコ.....
- ◇大型鐵製滑り臺.....
- ◇樂隊遊び用樂器一揃.....
- ◇人形芝居用舞臺・人形一揃.....
- ◇子供の家(社會遊び).....
- ◇その他新案各種運動具.....

八一七五一一八一一七三四四七八八
七五八五三一五三八〇二〇五八〇
圓圓圓圓圓圓圓圓圓圓圓圓圓圓

株式会社 ベーレフ館

番七二八三(33)段九話電・路 小川今・田神・京東
番八三九一町本話電・五町後備・區 東・阪大
店本所張出